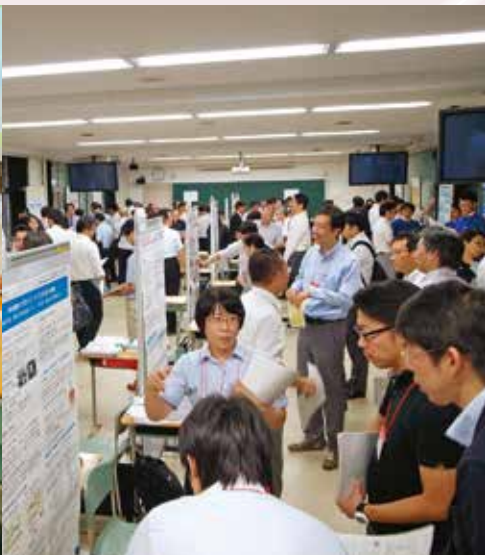




研修プログラムガイド 2016



四国地区大学教職員能力開発ネットワーク



研修プログラムガイド2016の発刊にあたって

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」は、平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業の採択を機に設立されました。平成23年度からは、加盟校からの分担金による自主運営体制に切り替わり、四国地区にある高等教育機関が連携して取組を継続しています。

本ガイドブックには、SPOD加盟校内で今年度開催され、加盟校間で相互に参加できるFD／SDプログラムが掲載されております。SPODでは加盟校間での情報共有を促すため、このガイドブックを平成21年度より毎年発行し、加盟校の全教職員約7,000名に配布しています。

本誌に掲載されているプログラムは、授業改善のためのスキルや、学生支援の実践とコツ、カリキュラム改善や組織改善に関するものまで、実践的で多様な内容となっています。SPODでは、これまで実施してきた各プログラムのアンケート結果を反映させるほか、昨今求められる学生の主体的な学びの確立に向けた大学教育の質的転換に対応すべく、アクティブ・ラーニングや学習評価に関するプログラムを開講しています。また、「大学職員の資質向上」の重要性が指摘されるなか、職員としての広範な素養を身につけるためのプログラムを体系的に実施するなど、受講者の声や時代のニーズに応じたプログラムを提供しています。

平成26年度以降、SPODが提供したプログラムの受講者数は毎年延べ2,500名を超えております。四国地区の多くの教職員の皆様にSPOD事業をご活用いただいていることに深く感謝いたします。今後も加盟校の皆様や事業評価委員からいただいた意見をもとに、より良いプログラムを提供できるよう、引き続き事業の取組内容について議論を重ねて参ります。

引き続き加盟校の皆様には、ご協力・ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク会長

愛媛大学長 大橋 裕一

研修プログラムガイド2016目次

研修プログラムガイド利用の手引き	3	FD/SDプログラム(教職員対象)	37
SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について	4	クリッカーで教育・研究が変わる!	38
はじめてSPOD研修プログラムを利用される方へ	9	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計-課題分析図の活用-	38
日程別プログラム一覧	10	アクティブラーニング入門セミナー	39
開催大学別プログラム一覧	12	管理監督者のためのメンタルヘルス研修会	39
テーマ別プログラム一覧	14	プロジェクトマネジメント	40
平成28年度SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧	16	学生を眠らせない講義法のコツ	40
研修プログラム		ルーブリック評価入門	41
FDプログラム(教員対象)	17	講義のための話し方入門	41
授業設計ワークショップ	18	New!! FD担当者研修	42
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	19	大人数講義法の基本	42
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	20	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための	
New!! 大人数講義をもっとうまくやるためのコツ	21	インストラクショナル・デザイン(ID) 入門 -ARCS動機づけモデルの活用-	43
始めよう!アクティブ・ラーニング-協同学習・話し合いの技法編-	21	パワーポイントの基本的な使い方	43
始めよう!アクティブ・ラーニング-協同学習・教え合いの技法編-	22	eラーニング活用(入門編)-学習支援システムMoodleを活用して	
始めよう!アクティブ・ラーニング-協同学習・問題解決の技法編-	22	きめ細やかな学習支援を実現しよう-	44
New!! 始めよう!アクティブ・ラーニング-協同学習・図解の技法編-	23	動画教材作成法	44
New!! 始めよう!アクティブ・ラーニング-協同学習・文章作成の技法編-	23	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	45
学生の学びを促すシラバスの書き方	24	SDプログラム(職員対象)	47
基礎から学ぶ学習評価法	24	次世代リーダー養成ゼミナール	48
New!! 学生参加型授業の技法	25	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ) 第1回	
「アカデミック・スキル」をどう教えるか	25	【新任職員研修】	50
New!! 「日本語技法」をどう教えるか	26	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ) 第2回	51
効果的なグループワークの進め方	26	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	52
学習評価の基本	27	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	53
会議マネジメント	27	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	54
授業デザインワークショップ	28	職員のための講師養成講座	55
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	29	New!! スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	56
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	29	ブレFDプログラム(大学院生対象)	57
効果的なeラーニング活用方法(超入門編)	30	TA講習	58
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ	30	New!! ピアサポーター養成講座	58
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	31	ファシリテーション力養成道場	59
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	32	総合プログラム	61
New!! 大学授業入門	32	大学教育カンファレンス in 徳島	62
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	33	大学マネジメントセミナー	63
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方-	34	愛媛大学教育改革シンポジウム	64
New!! はじめてみよう!アクティブ・ラーニング	34	SPODフォーラム2016	65
New!! グループワークの技法	35	学内向け研修プログラム	67
New!! 学生の声を生かした授業デザイン~教育心理学の視点から~	35	各種研修プログラムの	
New!! シラバスブラッシュアップワークショップ	36	お申し込み・お問い合わせについて	74
能動的学習支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門	36		

33

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について

◇概要

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、FD/S D事業のネットワークであり、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある32の高等教育機関が加盟するネットワークへと成長しています。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、「Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education」の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれています。

◇目標

SPODの全加盟校が連携してネットワーク事業を展開し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行うことで、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの輩出を目指しています。



◇運営体制

SPODは、安定した運営体制に特徴があります。徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学の4大学をネットワークコア校とし、FD/S D/事務担当者が月に1回程度集まり、ネットワークコア運営協議会を開催し、教職協働で事業の実施、運営上の諸課題を協議しています。このことが、ネットワークコア校間の教職員の関係を密にし、事業の推進力となっています。ネットワークコア校は、各県内加盟校のとりまとめや、県内加盟校会議を通じての情報提供のほか、各加盟校に対して、各種プログラムを提供し、プログラムに対する意見収集や、ニーズ把握調査の実施により、SPOD加盟校全体のニーズに対応できるよう日々プログラムの見直しを行っています。また、ネットワークコア校のFD/S D担当者が直接、加盟校を訪問する研修講師派遣事業も行っています。

さらに、全加盟校へ本事業の情報を提供するため、ホームページ上への研修資料の提供、定期的なメールマガジンの配信を行っています。

SPODでは、取組をよりよいものに改善していくため、外部の有識者3名で構成される事業評価委員会を設置しています。事業評価委員会では、毎年、SPODが作成した活動報告書をもとに、書面により事業評価を行っています。その評価結果をもとに、事業の改善や推進を行っています。

◇取組内容

(FD)

1. 全学的なFDの実践的指導者であるFDer（ファカルティ・ディベロッパー）を養成するための体系的プログラムの開発、実施
2. 教員としてのキャリアパスの早い段階において、基礎的な内容を学習できるように新任教員、大学院生、ポスドク向け標準的FD・プレFDプログラムの開発、実施

※特に、新任教員を対象とする研修の標準化を目指した取組に力を入れています。

3. 各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発、実施
4. 教員の教育業績記録を可視化するためのティーチング・ポートフォリオの開発

※1～3の取組を進めるにあたり、国立教育政策研究所高等教育研究部での研究成果を積極的に活用し、SPOD内のみならず、日本全国のモデルになるようプログラム開発を推進しています。

(SD)

1. 階層別、専門分野別のSDプログラムの開発、実施
 - a) 経営者、管理者養成プログラムの開発、実施
 - b) 専門職養成プログラムの開発、実施
 - c) 次世代リーダー養成ゼミナールの開発、実施
2. 職員の職歴や業績を可視化するためのスタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の開発
3. 1と2の取組を実質化するための職員キャリアアップサポートの実施
具体的には、開発したスタッフ・ポートフォリオを活用しながら、キャリアアップ支援の実施や、国公私を通じた職員人事交流などを実施していきます。

※SDを実践的に指導・支援するSDC（SDコーディネーター）の養成も行っています。

(SPODフォーラム) ※p.65参照

SPODが、大学・高専の教職員自らの能力開発のために、多種多様で質の高いFD／SDプログラムを集中的に実施し、組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場として毎年夏期3日間にわたり提供しているイベントで、本事業の目玉企画です。

SPOD-FDについて

【SPOD-FDの定義】

SPODにおけるFDは、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、

(1)授業改善、(2)カリキュラム改善、(3)組織整備・改革 への組織的な取組の総称です。

(1) 授業改善 (Instructional Development)

個々の授業をより良いものにするための取組みです。具体的には、授業評価アンケート、教員相互の授業参観、授業コンサルテーション、教授法に関する講演会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・新任教員研修 ・各種スキルアップ系研修 ・各種公開セミナー

〈各大学での取組例〉

・教員相互の授業参観、授業講評会 ・学生による授業評価アンケート
・各種セミナー ・学生との意見交換会

(2) カリキュラム改善 (Curriculum Development)

学部、学科、課程、コース等において提供されるカリキュラムや教育プログラムをより良いものにするための取組です。具体的には、カリキュラム・ポリシーの制定、授業科目の新設・改廃、授業科目間の関連性の検討、カリキュラムの現状診断・評価・開発、またこれらに関わるセミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・ファカルティ・ディベロッパー * 養成講座
・カリキュラム改善に関するセミナー

〈各大学での取組例〉

・カリキュラム・ポリシー制定に関する学内FD研修会

- ・カリキュラム・ポリシーに対応した各授業科目の授業内容の検討
- ・カリキュラム・マップの作成 ・副専攻制導入の検討

(3) 組織の整備・改革 (Organizational Development)

教育・学生支援に関わる組織の構造や組織間の関係をより機能的なものにするための取組です。具体的には、教育・学生支援に関わる委員会の設置・改廃、各委員会の役割の検討、組織の現状診断・評価・再編、組織間での連携協力、管理職等を対象とした各種研修会がこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

- ・ファカルティ・ディベロッパー* 養成講座

〈各大学での取組例〉

- ・SPODに関するFD実施体制の構築
- ・FD委員会等組織の見直し
- ・学科・コースの再編及びそれに伴う教員の再配置
- ・教育重点型教員の配置

(1), (2)においては、組織レベルのみならず教員個人レベルにおける取組も重要です。そして、(1), (2), (3)いずれにおいても、常にPDCAサイクルを意識して、持続的に改善を図る姿勢が肝要であると考えます。

*ファカルティ・ディベロッパー (FDer) とは、FDの責任者として、各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家です。教育技術のみならず、カリキュラムの改善や組織整備等も担います。高等教育センター等に所属しますが、学部にも所属している教員が、兼任でその役割を担うことも多くあります。

【SPOD-FDプログラムのレベルについて】

国立教育政策研究所が開発したFDマップを利用して、本ガイドブックに掲載されているSPOD-FDプログラムのレベル分類をおこなっています。FDマップとは、FDプログラムを体系的に整理できる枠組です (図参照)。FDマップでは、横軸にFDプログラムを実施する対象を示し、「ミクロ・レベル (授業・教授法の開発)」「ミドル・レベル (カリキュラム・プログラム開発)」「マクロ・レベル (組織の教育環境・教育制度の開発)」に分類しています。そして縦軸にFDを実施する対象者の能力開発の段階を示し、「Ⅰ. 導入 (気づく・わかる)」「Ⅱ. 基本 (実践できる)」「Ⅲ. 応用 (開発・報告できる)」「Ⅳ. 支援 (教えられる)」と4つのフェーズに分かれています。

本ガイドブック「テーマ別索引」(p.14)に、各プログラムのレベルとフェーズを提示しておりますのでご参照ください。

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・ プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・ 教育制度
Ⅰ. 導入 (気づく・わかる)			
Ⅱ. 基本 (実践できる)			
Ⅲ. 応用 (開発・報告できる)			
Ⅳ. 支援 (教えられる)			

図. FDマップのフレームワーク

参考・引用文献

国立教育政策研究所 FDer研究会『大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン』国立教育政策研究所, 2009

SPOD-SDについて

(1) SPOD-SDの定義

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校ジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

学士課程答申では、大学職員の職能開発について現状と課題を整理し、改善に向けた方策を示しています。SPOD-SDにおいては、この現状と課題を踏まえ、大学等の職員として一般的に求められる大学人・社会人基礎力及び大学等における複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学習など）を持ち、大学等における問題に関する知識・理解などを備えたジェネラリストの育成に加え、教育方法の改革の実践を支える人材、経営を支援する人材、国際交流を支援する人材及び地域連携を支援する人材など、特定の分野において、より高度な専門性を備えたスペシャリストの育成を目指しています。

また、SPOD-SDでは、大学等の職員に必要な資質とは、ジェネラリスト的な要素とスペシャリスト的な要素を統合したハイブリッドな要素を備えることであり、これが、高等教育のプロフェッショナルの養成につながると考えております。このため、SPOD-SDの定義を「大学等のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する」としました。

(2) SPOD-SDプログラムの開発

高等教育機関の職員は、大学人として社会人基礎力を持ち、高等教育を取り巻く環境や職員の果たすべき役割を的確に把握し、企画立案等に積極的に参画できる資質が求められています。このためSPOD-SDプログラムでは、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を可視化し、職場外研修（OFF-JT）及び職場内研修（OJT）を「意図的・計画的・持続的」に実施することにより、職員の能力開発の実質化を図ります。

なお、SPOD-SDプログラム等の開発・実施は、全加盟校による協働を目指しています。各県のコア校が中心となり、1）職員がSDプログラム開発手法を学び、2）その上で、具体的なSDプログラムを開発し、3）開発されたSDプログラムを実施し、4）実施したSDプログラムの評価・改善を行います。

(3) SPOD-SDプログラムの構成

SPOD-SDプログラムは次の3つの柱で構成されています。

1) SPOD-SD大学（OFF-JT）

SPODにおける職員養成プログラムは、その養成プログラム全体を大学における課程の履修と想定しています。そのカリキュラムは共通教育、専門教育及び大学院における履修方式をとることとし、その課程認定については、認定必要単位を設定しています。

具体的には、SPOD-SD大学としてSDプログラムの単位認定制度を図のように構想しています。専門職養成課程として共通教育と専門教育の各プログラムを構築し、リーダー養成課程として次世代リーダー養成ゼミナール及び管理者・経営者養成プログラムを構築しました。

1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成するSDプログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル 1 専門〇〇単位 共通〇〇単位	医学部(研究科) 医事学部(研究科) 情報処理学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 図書学部(研究科) 施設学部(研究科) 財務学部(研究科) 総務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 学務学部(研究科)	大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目
修士課程(専門) レベル 2 専門〇〇単位 共通〇〇単位		
博士課程(専門) レベル 3 専門〇〇単位 共通〇〇単位		

2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) 〇〇単位	次世代リーダー養成ゼミナール
博士課程(リーダー) 〇〇単位	経営者・管理者養成プログラム(高等教育トップリーダーセミナー)

図. SPOD - SD 大学構想図

さらに、SPOD-SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、次のSPOD-SDプログラムの講師となり、次世代の職員を育成していくというサイクルを確立することで、SPOD-SDの取組を継続的に実施していくことが可能となります。

2) スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の作成（OJT）

職員個々人のキャリア形成に向けて、スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）を作成します。これにより、大学等職員としての自己認識と方向性を明確にします。スタッフ・ポートフォリオの導入に当たっては、職員のキャリア・アップの参考となるものとします。

3) 職員キャリア・アップ・サポート制度（OJT）

キャリア・アップ・サポートとして、スタッフ・ポートフォリオに掲げる職員としてのビジョン及びゴールの目標設定や目標達成に向けて、上司が部下に対して相談、助言等を行うメンター制度を導入します。これにより、大学等の組織と職員個人の方向性を近づけることが可能となります。さらに、キャリア・アップを目指す職員が他大学への人事交流を希望する場合等のSPOD加盟校間における連絡・調整など、人事交流を円滑に推進するなどのサポートも実施します。

SPOD-SDプログラムは、国内の大学等における本格的な職員養成プログラムとなることを目指しています。このため、四国内における大学等の協働だけでなく、国内の各関係機関や学会等とも連携し、教員と職員が協働して開発することが肝要であると考えます。

はじめて SPOD 研修プログラムを利用される方へ

◇授業を担当して間もない方へのおすすめプログラム

※シラバスの書き方や評価法、様々な授業方法などについて総合的・集中的に学ぶことができます。

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
授業設計ワークショップ	6月18日(土)～19日(日)	徳島大学	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月15日(木)～16日(金)	香川大学	p.20
授業デザインワークショップ(第26回, 第27回)	7月2日(土)～3日(日)	愛媛大学	p.28
	8月31日(水)～9月2日(金)		
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	8月30日(火)～31日(水)	高知大学	p.33

◇授業に参加型学習を取り入れたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
始めよう!アクティブ・ラーニング協同学習・話し合いの技法編ー	9月26日(月)	香川大学	p.21
始めよう!アクティブ・ラーニング協同学習・教え合いの技法編ー	9月27日(火)	香川大学	p.22
始めよう!アクティブ・ラーニング協同学習・問題解決の技法編ー	9月27日(火)	香川大学	p.22
始めよう!アクティブ・ラーニング協同学習・図解の技法編ー	9月28日(水)	香川大学	p.23
始めよう!アクティブ・ラーニング協同学習・文章作成の技法編ー	9月28日(水)	香川大学	p.23
効果的なグループワークの進め方<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(火)	愛媛大学	p.26
アクティブラーニング入門セミナー<春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(火)	愛媛大学	p.39
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイナー-考え方と進め方ー	9月6日(火)	高知大学	p.34
はじめてみよう!アクティブ・ラーニング	9月6日(火)	高知大学	p.34
グループワークの技法	9月7日(水)	高知大学	p.35
学生参加型授業の技法	12月27日(火)	香川大学	p.25
能動的学習支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門	3月27日(月)	高知大学	p.36

◇大学職員として基礎的能力を身につけたい方へのおすすめプログラム

プログラム名	開催日時	開催大学	詳細
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルI) 第1回【新任職員研修】	5月9日(月)～11日(水)	高知大学	p.50
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルI) 第2回	11月17日(木)～18日(金)	愛媛大学	p.51

日程別プログラム一覧

日 程	プログラム名	開催大学	内容	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
4月						
4月5日(火)	効果的なグループワークの進め方 <春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD		I-001	p.26
4月5日(火)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～ <春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-012	p.38
4月5日(火)	アクティブラーニング入門セミナー <春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-013	p.39
4月6日(水)	学習評価の基本 <春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD		I-002	p.27
4月6日(水)	会議マネジメント <春期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD		I-003	p.27
4月6日(水)	大学授業入門	高知大学	FD		Y-001	p.32
5月						
5月9日(月)～11日(水)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第1回【新任職員研修】	高知大学	SD		Y-009	p.50
5月23日(月)	クリッカーで教育・研究が変わる！	香川大学	FD/SD		K-013	p.38
5月26日(木)～28日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	SD		I-028	p.48
5月27日(金)～28日(土)	大学マネジメントセミナー(第1回)	愛媛大学	FD/SD		I-026	p.63
6月						
6月16日(木)～17日(金)	職員のための講師養成講座(第1回)「総論」	愛媛大学	SD		I-029	p.55
6月18日(土)～19日(日)	授業設計ワークショップ	徳島大学	FD		T-001	p.18
7月						
7月2日(土)～3日(日)	授業デザインワークショップ(第26回)	愛媛大学	FD		I-004	p.28
7月8日(金)	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	愛媛大学	FD		I-005	p.29
7月9日(土)～10日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD		I-006	p.29
7月21日(木)～23日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	香川大学	SD		K-015	p.48
7月22日(金)～23日(土)	大学マネジメントセミナー(第2回)	香川大学	FD/SD		K-014	p.63
7月中	管理監督者のためのメンタルヘルス研修会	愛媛大学	FD/SD		I-014	p.39
8月						
8月18日(木)	プロジェクトマネジメント <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-015	p.40
8月19日(金)	学生を眠らせない講義法のコツ <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-016	p.40
8月19日(金)	ルーブリック評価入門 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-017	p.41
8月19日(金)	講義のための話し方入門 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-018	p.41
8月23日(火)	FD担当者研修	愛媛大学	FD/SD		I-019	p.42
8月24日(水)～26日(金)	SPODフォーラム2016	愛媛大学	FD/SD			p.65
8月30日(火)～31日(水)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	FD		Y-002	p.33
8月31日(水)～9月2日(金)	授業デザインワークショップ(第27回)	愛媛大学	FD		I-007	p.28
9月						
9月6日(火)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	高知大学	FD		Y-003	p.34
9月6日(火)	はじめてみよう！アクティブ・ラーニング	高知大学	FD		Y-004	p.34
9月6日(火)	大人数講義法の基本 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD★	 遠隔配信のみ	I-020	p.42
9月7日(水)	グループワークの技法	高知大学	FD		Y-005	p.35
9月7日(水)	学生の声を生かした授業デザイン～教育心理学の視点から～	高知大学	FD		Y-006	p.35
9月7日(水)～8日(木)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	愛媛大学	SD		I-030	p.54
9月12日(月)	効果的なeラーニング活用方法(超入門編) <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD		I-008	p.30
9月12日(月)	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD		I-009	p.30
9月13日(火)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS動機づけモデルの活用～ <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-021	p.43
9月15日(木)	パワーポイントの基本的な使い方 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-022	p.43

日 程	プログラム名	開催大学	内容	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
9月15日(木)～16日(金)	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	香川大学	FD		K-001	p.20
9月16日(金)	eラーニング活用(入門編)～学習支援システムMoodleを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう～〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	愛媛大学	FD/SD		I-023	p.44
9月23日(金)	動画教材作成法 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD/SD		I-024	p.44
9月23日(金)～25日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	愛媛大学	FD		I-010	p.31
9月23日(金)～25日(日)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD		I-011	p.32
9月26日(月)	大人数講義をもっとうまくやるためのコツ	香川大学	FD		K-002	p.21
9月26日(月)	始めよう！アクティブ・ラーニング～協同学習・話し合いの技法編～	香川大学	FD		K-003	p.21
9月27日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニング～協同学習・教え合いの技法編～	香川大学	FD		K-004	p.22
9月27日(火)	始めよう！アクティブ・ラーニング～協同学習・問題解決の技法編～	香川大学	FD		K-005	p.22
9月27日(火)	TA講習	高知大学	ブレFD		Y-011	p.58
9月28日(水)	始めよう！アクティブ・ラーニング～協同学習・図解の技法編～	香川大学	FD		K-006	p.23
9月28日(水)	始めよう！アクティブ・ラーニング～協同学習・文章作成の技法編～	香川大学	FD		K-007	p.23
9月28日(水)	ピアサポーター養成講座	高知大学	ブレFD		Y-013	p.58
9月28日(水)～29日(木)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	愛媛大学	SD		I-031	p.53
10月						
10月1日(土)～2日(日)	ファシリテーション力養成道場	高知大学	ブレFD		Y-014	p.59
10月6日(木)～7日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	愛媛大学	SD		I-032	p.52
10月27日(木)～29日(土)	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	徳島大学	SD		T-004	p.48
11月						
11月10日(木)～11日(金)	職員のための講師養成講座(第2回)「マイクロティーチング」	愛媛大学	SD		I-033	p.55
11月17日(木)～18日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第2回	愛媛大学	SD		I-034	p.51
12月						
12月3日(土)～4日(日)	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	SD		I-035	p.56
12月15日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	FD/SD		I-025	p.45
12月26日(月)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	FD		K-008	p.24
12月26日(月)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	FD		K-009	p.24
12月27日(火)	学生参加型授業の技法	香川大学	FD		K-010	p.25
12月～1月	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学	FD*/SD		T-003	p.62
1月						
1月19日(木)～20日(金)	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	高知大学	SD		Y-010	p.48
1月25日(水)	シラバスブラッシュアップワークショップ	高知大学	FD		Y-007	p.36
3月						
3月2日(木)	「アカデミック・スキル」をどう教えるか	香川大学	FD		K-011	p.25
3月7日(火)	「日本語技法」をどう教えるか	香川大学	FD		K-012	p.26
3月27日(月)	能動的学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学	FD		Y-008	p.36
3月30日(木)	TA講習	高知大学	ブレFD		Y-012	p.58
3月中	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	徳島大学	FD		T-002	p.19
3月中	愛媛大学教育改革シンポジウム	愛媛大学	FD*/SD		I-027	p.64

内容についての 説明	FD …………… 教員対象	SD …………… 職員対象
	FD* …………… 教員対象 (学生・院生も参加可能)	ブレFD …… 大学院生対象
	FD/SD …… 教職員対象	★…………… 遠隔配信のみのため愛媛大学内では受講不可

開催大学別プログラム一覧

大学名	プログラム名	日程	内容	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
徳島大学	授業設計ワークショップ	6月18日(土)～19日(日)	FD		T-001	p.18
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	3月中	FD		T-002	p.19
	大学教育カンファレンス in 徳島	12月～1月	FD*/SD		T-003	p.62
	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	10月27日(木)～29日(土)	SD		T-004	p.48
香川大学	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月15日(木)～16日(金)	FD		K-001	p.20
	大人数講義をもっとうまくやるためのコツ	9月26日(月)	FD		K-002	p.21
	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・話し合いの技法編ー	9月26日(月)	FD		K-003	p.21
	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・教え合いの技法編ー	9月27日(火)	FD		K-004	p.22
	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・問題解決の技法編ー	9月27日(火)	FD		K-005	p.22
	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・図解の技法編ー	9月28日(水)	FD		K-006	p.23
	始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・文章作成の技法編ー	9月28日(水)	FD		K-007	p.23
	学生の学びを促すシラバスの書き方	12月26日(月)	FD		K-008	p.24
	基礎から学ぶ学習評価法	12月26日(月)	FD		K-009	p.24
	学生参加型授業の技法	12月27日(火)	FD		K-010	p.25
	「アカデミック・スキル」をどう教えるか	3月2日(木)	FD		K-011	p.25
	「日本語技法」をどう教えるか	3月7日(火)	FD		K-012	p.26
	クリッカーで教育・研究が変わる！	5月23日(月)	FD/SD		K-013	p.38
	大学マネジメントセミナー(第2回)	7月22日(金)～23日(土)	FD/SD		K-014	p.63
	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	7月21日(木)～23日(土)	SD		K-015	p.48
愛媛大学	効果的なグループワークの進め方 <春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(火)	FD		I-001	p.26
	学習評価の基本 <春期FD・SDスキルアップ講座>	4月6日(水)	FD		I-002	p.27
	会議マネジメント <春期FD・SDスキルアップ講座>	4月6日(水)	FD		I-003	p.27
	授業デザインワークショップ(第26回)	7月2日(土)～3日(日)	FD		I-004	p.28
	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	7月8日(金)	FD		I-005	p.29
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	7月9日(土)～10日(日)	FD		I-006	p.29
	授業デザインワークショップ(第27回)	8月31日(水)～9月2日(金)	FD		I-007	p.28
	効果的なeラーニング活用方法(超入門編) <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月12日(月)	FD		I-008	p.30
	英語で授業をしたい教員のためのワークショップ <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月12日(月)	FD		I-009	p.30
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	9月23日(金)～25日(日)	FD		I-010	p.31
	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	9月23日(金)～25日(日)	FD		I-011	p.32
	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計ー課題分析図の活用ー <春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(火)	FD/SD		I-012	p.38
	アクティブラーニング入門セミナー <春期FD・SDスキルアップ講座>	4月5日(火)	FD/SD	遠隔	I-013	p.39
	管理監督者のためのメンタルヘルス研修会	7月中	FD/SD		I-014	p.39
	プロジェクトマネジメント <夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月18日(木)	FD/SD		I-015	p.40
	学生を眠らせない講義法のコツ <夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月19日(金)	FD/SD	遠隔	I-016	p.40

大学名	プログラム名	日程	内容	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
愛媛大学	ルーブリック評価入門 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月19日(金)	FD/SD		I-017	p.41
	講義のための話し方入門 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	8月19日(金)	FD/SD		I-018	p.41
	FD担当者研修	8月23日(火)	FD/SD		I-019	p.42
	大人数講義法の基本 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月6日(火)	FD/SD★	 遠隔配信のみ	I-020	p.42
	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン(ID)入門-ARCS動機づけモデルの活用- <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月13日(火)	FD/SD		I-021	p.43
	パワーポイントの基本的な使い方 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月15日(木)	FD/SD		I-022	p.43
	eラーニング活用(入門編)-学習支援システムMoodleを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう- <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月16日(金)	FD/SD		I-023	p.44
	動画教材作成法 <夏期FD・SDスキルアップ講座>	9月23日(金)	FD/SD		I-024	p.44
	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	12月15日(木)	FD/SD		I-025	p.45
	大学マネジメントセミナー(第1回)	5月27日(金)~28日(土)	FD/SD		I-026	p.63
	愛媛大学教育改革シンポジウム	3月中	FD*/SD		I-027	p.64
	SPODフォーラム2016	8月24日(水)~26日(金)	FD/SD			p.65
	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	5月26日(木)~28日(土)	SD		I-028	p.48
	職員のための講師養成講座(第1回)「総論」	6月16日(木)~17日(金)	SD		I-029	p.55
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	9月7日(水)~8日(木)	SD		I-030	p.54
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	9月28日(水)~29日(木)	SD		I-031	p.53
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	10月6日(木)~7日(金)	SD		I-032	p.52
	職員のための講師養成講座(第2回)「マイクロティーチング」	11月10日(木)~11日(金)	SD		I-033	p.55
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第2回	11月17日(木)~18日(金)	SD		I-034	p.51
	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	12月3日(土)~4日(日)	SD		I-035	p.56
高知大学	大学授業入門	4月6日(水)	FD		Y-001	p.32
	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	8月30日(火)~31日(水)	FD		Y-002	p.33
	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	9月6日(火)	FD		Y-003	p.34
	はじめてみよう!アクティブ・ラーニング	9月6日(火)	FD		Y-004	p.34
	グループワークの技法	9月7日(水)	FD		Y-005	p.35
	学生の声を生かした授業デザインー教育心理学の視点からー	9月7日(水)	FD		Y-006	p.35
	シラバスブラッシュアップワークショップ	1月25日(水)	FD		Y-007	p.36
	能動的学習支援者必須!グループワークのためのファシリテーション入門	3月27日(月)	FD		Y-008	p.36
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第1回【新任職員研修】	5月9日(月)~11日(水)	SD		Y-009	p.50
	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	1月19日(木)~20日(金)	SD		Y-010	p.48
	TA講習	9月27日(火)	プレFD		Y-011	p.58
	TA講習	3月30日(木)	プレFD		Y-012	p.58
	ピアサポーター養成講座	9月28日(水)	プレFD		Y-013	p.58
	ファシリテーション力養成道場	10月1日(土)~2日(日)	プレFD		Y-014	p.59

テーマ別プログラム一覧

プログラム名〈FDプログラム〉	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	ミクロ	ミドル	マクロ		
授 業 の 基 本					
授業設計ワークショップ	I II			徳島大学	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	I II			香川大学	p.20
大人数講義をもっとうまくやるためのコツ	I II			香川大学	p.21
学生の学びを促すシラバスの書き方	I II			香川大学	p.24
基礎から学ぶ学習評価法	I II			香川大学	p.24
「アカデミック・スキル」をどう教えるか	I II			香川大学	p.25
「日本語技法」をどう教えるか	I II			香川大学	p.26
学習評価の基本 ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.27
授業デザインワークショップ(第26回)	I II			愛媛大学	p.28
授業デザインワークショップ(第27回)	I II			愛媛大学	p.28
学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－ ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.38
学生を眠らせない講義法のコツ ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.40
ルーブリック評価入門 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.41
講義のための話し方入門 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.41
FD担当者研修	I II	I II III		愛媛大学	p.42
大人数講義法の基本 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.42
学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門－ARCS動機づけモデルの活用－ ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.43
学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	I II			愛媛大学	p.45
大学授業入門	I II			高知大学	p.32
学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	I II			高知大学	p.33
シラバスブラッシュアップワークショップ	I II			高知大学	p.36
参 加 型 学 習					
始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・話し合いの技法編ー	I II			香川大学	p.21
始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・教え合いの技法編ー	I II			香川大学	p.22
始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・問題解決の技法編ー	I II			香川大学	p.22
始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・図解の技法編ー	I II			香川大学	p.23
始めよう！アクティブ・ラーニングー協同学習・文章作成の技法編ー	I II			香川大学	p.23
学生参加型授業の技法	I II			香川大学	p.25
効果的なグループワークの進め方 ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.26
アクティブラーニング入門セミナー ＜春期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.39
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	I II			高知大学	p.34
はじめてみよう！アクティブ・ラーニング	II			高知大学	p.34
グループワークの技法	I II			高知大学	p.35
能動的学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門	I II			高知大学	p.36
ファシリテーション力養成道場	I II			高知大学	p.59
I C T					
クリッカーで教育・研究が変わる！	I II			香川大学	p.38
効果的なeラーニング活用方法(超入門編) ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.30
パワーポイントの基本的な使い方 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.43
eラーニング活用(入門編)ー学習支援システムMoodleを活用してきめ細やかな学習支援を実現しようー ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.44
動画教材作成法 ＜夏期FD・SDスキルアップ講座＞	I II			愛媛大学	p.44

プログラム名〈FDプログラム〉	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	ミクロ	ミドル	マクロ		
多様な学生への支援					
英語で授業をしたい教員のためのワークショップ〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.30
学生の声を生かした授業デザイン～教育心理学の視点から～	IⅡⅢⅣ			高知大学	p.35
総合プログラム					
大学教育カンファレンス in 徳島	IⅡⅢⅣ	IⅡⅢⅣ	IⅡ	徳島大学	p.62
大学マネジメントセミナー(第1回)	IⅡⅢⅣ	IⅡⅢⅣ	IⅡ	愛媛大学	p.63
大学マネジメントセミナー(第2回)	IⅡⅢⅣ	IⅡⅢⅣ	IⅡ	香川大学	p.63
愛媛大学教育改革シンポジウム	IⅡⅢⅣ	IⅡⅢⅣ	IⅡ	愛媛大学	p.64
SPODフォーラム2016	IⅡⅢⅣ	IⅡⅢⅣ	IⅡ	愛媛大学	p.65
プレFD					
TA講習	I			高知大学	p.58
ピアサポーター養成講座	IⅡ			高知大学	p.58
ポートフォリオ					
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	ⅡⅢ			徳島大学	p.19
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	ⅡⅢ			愛媛大学	p.29
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	ⅡⅢ			愛媛大学	p.29
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ〈高専対象〉	ⅡⅢ			愛媛大学	p.31
アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	ⅡⅢ			愛媛大学	p.32
マネジメント					
会議マネジメント〈春期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.27
プロジェクトマネジメント〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉	IⅡ			愛媛大学	p.40
職場における多様性と健康					
管理監督者のためのメンタルヘルス研修会	IⅡ			愛媛大学	p.39

プログラム名〈SDプログラム〉	開催場所	ページ
ビジネススキル		
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第1回【新任職員研修】	高知大学	p.50
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)第2回	愛媛大学	p.51
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	愛媛大学	p.52
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	愛媛大学	p.53
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)	愛媛大学	p.54
リーダーシップ・組織開発		
次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	愛媛大学	p.48
次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	香川大学	p.48
次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	徳島大学	p.48
次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	高知大学	p.48
職員のための講師養成講座(第1回)「総論」	愛媛大学	p.55
職員のための講師養成講座(第2回)「マイクロティーチング」	愛媛大学	p.55
ポートフォリオ		
スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	p.56

平成28年度SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

大学等名	プログラム名	日程	対象
徳 島			
徳島大学	大人数講義を魅力的にするテクニック	調整中	
四国大学・四国大学短期大学部	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	調整中	学内
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント	9月8日(休)	SPOD 全加盟校
徳島工業短期大学	身近なデータを活用した教育改善	7月15日(金)	SPOD 全加盟校
阿南工業高等専門学校	身近なデータを活用した教育改善	6月中旬	学内
香 川			
香川大学	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実践例より～	9月	SPOD 全加盟校
香川県立保健医療大学	効果的なeラーニングの活用方法	8月29日(月)	SPOD 全加盟校
高松大学・高松短期大学	大学組織を理解する	9月5日(月)	学内
香川短期大学	学生の主体性を促す学習支援	7月5日(火)	SPOD 全加盟校
愛 媛			
愛媛大学	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	9月14日(水)	SPOD 全加盟校
愛媛県立医療技術大学	後輩の成長を促すコーチング	8月8日(月)	SPOD 全加盟校
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実践例より～	9月20日(火)	SPOD 全加盟校
松山大学・松山短期大学	学生が輝くFDの実践事例	調整中	
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	SPOD課題発見コンサルテーション	6月9日(水)	学内
今治明德短期大学	学生の主体性を促す学習支援	9月15日(水)	学内
環太平洋大学短期大学部	学生の主体性を促す学習支援	9月28日(水)	学内
新居浜工業高等専門学校	講義VTR簡単作成ワークショップとアクティブ・ラーニングへの活用	5月31日(火)	学内
弓削商船高等専門学校	高専生を元気にする学生指導法のコツ	6月7日(火)	学内
高 知			
高知大学	大学組織を理解する	10月31日(月)	SPOD 全加盟校
高知県立大学・高知短期大学・高知工科大学	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	調整中	学内
高知学園短期大学	事例から考えるハラスメント	5月31日(火)	SPOD 全加盟校
高知工業高等専門学校	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	9月8日(水)	SPOD 全加盟校

【本件に関するお問い合わせ先】

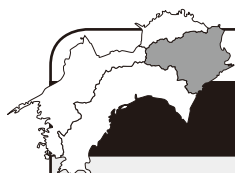
SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL：089-927-9154 E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp



FDプログラム

(教員対象)



プログラム番号 T-001

授業設計ワークショップ

FD

*主な対象

新任教員、授業方法や授業設計を学びたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. FD活動の理念、活動計画を理解することができる
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得することができる
3. 授業研究の仕方を理解し、実践することができる
4. FD参加者同士の仲間づくりができる

*講師

川野卓二、宮田政徳、久保田祐歌 他 (徳島大学 総合教育センター)

*日時

6月18日(土)9:00~18:00,
6月19日(日)9:00~15:00

*場所

徳島大学 常三島キャンパス 大学開放実践センター2階201教室

*受講定員

30名

*主催

徳島大学 FD委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学 学務部教育支援課教育企画室教育企画係
E-mail: kykikakuk@tokushima-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
 - ・はじめに (副学長より挨拶)
 - ・進め方とスタッフ紹介
 - ・研修のねらいと意義
2. アイスブレイク「課題・目標設定」
 - 参加者自己紹介・交流
3. 講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」
 - ・アクティブ・ラーニングの理論と効果
 - ・学生の深い学びを促す問いかけ
4. 講義「成績評価の仕方」
 - ・成績評価の意義・方法
5. 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」
 - ・学生の学習を促す授業方法
 - ・反転授業の理論と実践
 - ・学習を省察するポートフォリオの活用
 - ・シラバス・授業計画書の書き方
6. 講義・ワーク「授業計画」
 - ・シラバス・授業計画書の修正
 - ・2日目の模擬授業の進め方について



2日目

7. 模擬授業実施 (グループで実施)
 - ・FD委員紹介、流れの確認
 - 【模擬授業の流れ】(1人約25分×4人 (休憩適宜))
 - ・シラバス・授業計画書等の紹介 (5分)
 - ・模擬授業の実施 (15分)
 - ・授業検討会 (10分)
 - チェックリストをもとによかった点、改善点等を検討する。
8. 模擬授業の振り返り
 - ・模擬授業検討会を受けて授業の改善点
 - ・今後のアクションプラン
9. プログラムのまとめ
 - ・講評
 - ・教育力開発コースの意義・内容
 - ・修了証書授与
 - ・アンケート
 - ・おわりの言葉



▶参考資料

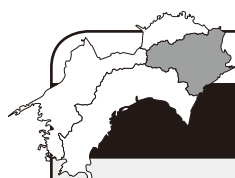
- ・佐藤浩章監訳 (2014)『大学教員のためのルーブリック評価入門』, 玉川大学出版部。
- ・佐藤浩章編 (2010)『大学教員のための授業方法とデザイン』, 玉川大学出版部。
- ・ノエル・エントウィルス (2010)『学生の理解を重視する大学授業』, 玉川大学出版部。
- ・中井俊樹 編著 (2015) シリーズ教授法3『アクティブラーニング』, 玉川大学出版部。

▶準備物等

事前に普段の授業 (あるいは今後担当予定、担当したい授業) のシラバス、ある日の授業計画 (講義1回分) の準備が必要になります。また、参加者全員が模擬授業を行いますので、ご自身が選ばれた担当授業の中からワンシーンを選び、スライドや資料 (使用される方のみ) をご準備頂くことになります。

▶受講者の声

- ・これまでに実施していた授業の内容、実施方法等々見直す機会になりました。内省を続けていかなければいけないと思いました。
- ・自分の授業でも改善できる工夫をいくつか得ることができた。また今後授業の内容、手法を改善していくための課題を得ることが出来、「大きな宿題」を頂いたと認識しています。
- ・アクティブラーニングのための各種技術を知った事。他分野の先生方からの見解を得られた事が良かった。
- ・他学科の先生とお話し情報交換できて良かった。



プログラム番号 T-002

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ **FD**

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

川野卓二、宮田政徳、吉田博（徳島大学総合教育センター）

*日時

3月中(2日間)

*場所

徳島大学 大学開放実践センター
2階（6号館 201）

*受講定員

10名

*主催

徳島大学 FD委員会

*大切

要問い合わせ

*申込先・問合先

徳島大学 総合教育センター
E-mail : t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

目標

- ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶参考資料

TP完成サンプル

内容

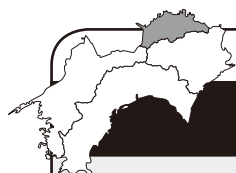
2日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業
(夜) 情報交換会 (任意)

<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 K-001

新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」

FD

*主な対象

新規採用された教員（大学での授業担当経験3年以上を除く）
その他参加を希望する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

*講師

香川大学大学教育基盤センター教員

*日時

9月15日(木)9:00～21:00-
9月16日(金)8:00～13:00

*場所

休暇村讃岐五色台（香川県坂出市）

*受講定員

30名

*主催

香川大学 大学教育基盤センター

*締切

8月22日(月)まで、先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. グループワークⅠ「学生の考える良い授業」
4. 講義Ⅰ「シラバスの書き方」
目標設定の仕方
授業計画の立て方
5. グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」
目標設定
授業計画
シラバス作成
6. 講義Ⅱ「様々な授業方法」
講義形式のメリット・デメリット
双方向型授業のコツ
マイクロティーチング
7. 講義Ⅲ「よりよい成績評価の仕方」
成績評価の目的
評価の方法と評価対象
8. グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」
授業計画と評価計画
9. グループ発表Ⅰ「中間発表」
10. グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」
授業計画案作成



2日目

11. グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」
役割決定
授業の練習
12. グループ発表Ⅱ「ミニ授業」

(※宿泊研修です。1日だけの参加はできません。)



▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第1巻改訂第2版
『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第2巻改訂第2版

▶受講者の声

今回のFDワークショップに参加して、他の学問領域の先生方と交流させて頂き、様々な形態で知の展開がなされていることを身を以て知ることができました。

平日頃は、所属学科の中でしか授業に参加することがなく、学生たちにも実践的方法論を伝授することがほとんどです。

そのため、今回のワークショップのグループワークのような抽象度の高いトピックについて、授業設計して模擬授業を行う経験をさせていただき、より幅の広い視野でシームレスな授業計画が必要だと強く感じました。

どのような学生にもよりわかりやすく聞きやすい授業を設計できるよう今回の学びをフルに活用させて頂きたいと思います。

プログラム番号 K-002 **New!!****大人数講義をもっとうまくやるためのコツ** **FD*****主な対象***

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一 (香川大学大学教育基盤センター)

日時

9月26日(月)13:00~14:30

場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メ切

開講日2週間前

申込先・問合せ先香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp***目標***

自分の授業で応用可能なコツをひとつ以上持ち帰る。

内容

1. 大規模クラスの特長性
2. 構成をしっかりと考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペア/グループ・ワークを挿入する
6. 発問で刺激を
7. 資料配布・回収やテストを効率的に行う
8. 学習を阻害する行為を管理する
9. まとめ

プログラム番号 K-003

始めよう!アクティブ・ラーニングー協同学習・話し合いの技法編ー **FD*****主な対象***

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一 (香川大学大学教育基盤センター)

日時

9月26日(月)14:40~16:10

場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メ切

開講日2週間前

申込先・問合せ先香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp***目標***

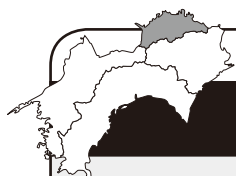
アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、また、協同学習とはどのようなものか、説明することができる。

話し合いの技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。

自らの授業に話し合いの技法を取り入れることができる。

内容

0. はじめに
1. アクティブ・ラーニングとは
2. アクティブ・ラーニングが求められる背景
3. 協同学習・話し合いの技法の紹介
4. 技法を実践する際の留意点
5. 授業をよりよいものにするために
6. おわりに



プログラム番号 K-004

始めよう!アクティブ・ラーニングー協同学習・教え合いの技法編ー **FD**

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤慶太（香川大学大学教育基盤センター）

*日時

9月27日(火)13:00~14:30

*場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

*受講定員

50名

*主催

香川大学 大学教育基盤センター

*メ切

開講日2週間前

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

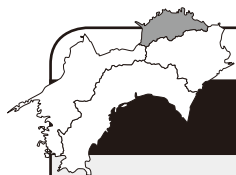
アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、また、協同学習とはどのようなものか、説明することができる。

教え合いの技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。

自らの授業に教え合いの技法を取り入れることができる。

内容

1. アクティブ・ラーニングについて
2. 教えあいの技法の紹介
 - 2-1. ノート・テイキング・ペア
 - 2-2. ラーニング・セル
 - 2-3. フィッシュボウル
 - 2-4. ロールプレイ
 - 2-5. ジグソー学習
 - 2-6. テスト・テイキング・チーム
3. まとめ



プログラム番号 K-005

始めよう!アクティブ・ラーニングー協同学習・問題解決の技法編ー **FD**

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

三宅岳史（香川大学教育学部）

*日時

9月27日(火)14:40~16:10

*場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

*受講定員

50名

*主催

香川大学 大学教育基盤センター

*メ切

開講日2週間前

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

問題解決の技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。

自らの授業に問題解決の技法を導入することができる。

内容

0. はじめに
1. アクティブ・ラーニングと問題解決
2. 問題解決の技法の紹介
 - 2-1. アナリティック・チーム
 - 2-2. センド・ア・プロブレム
 - 2-3. ケース・スタディ
 - 2-4. グループ・インベスティゲーション
 - 2-5. ネゴシエーション・ゲーム
3. 問題解決vs.オープンエンド
 - 3-1. こども哲学
 - 3-2. 哲学カフェ
4. おわりに

プログラム番号 K-006 **New!!****始めよう!アクティブ・ラーニングー協同学習・図解の技法編ー****FD*****主な対象**

教員

***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

右記参照

***講師**

西本佳代 (香川大学大学教育基盤センター)

***日時**

9月28日(水) 13:00~14:30

***場所**

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

***受講定員**

50名

***主催**

香川大学 大学教育基盤センター

***メ切**

開講日2週間前

***申込先・問合せ先**香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp***目標***

- ・アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、説明することができる。
- ・図解の技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
- ・自らの授業に図解の技法を導入することができる。

内容

0. はじめに
1. アクティブ・ラーニングとは何か
2. 協同学習・図解の技法
 - 2-1. アフィニティ=グルーピング
 - 2-2. グループ=グリッド
 - 2-3. チーム=マトリックス
 - 2-4. シークエンス=チェイン
 - 2-5. ワード=ウェブ
3. おわりに

プログラム番号 K-007 **New!!****始めよう!アクティブ・ラーニングー協同学習・文章作成の技法編ー****FD*****主な対象**

教員

***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

右記参照

***講師**

西本佳代 (香川大学大学教育基盤センター)

***日時**

9月28日(水) 14:40~16:10

***場所**

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

***受講定員**

50名

***主催**

香川大学 大学教育基盤センター

***メ切**

開講日2週間前

***申込先・問合せ先**香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp***目標***

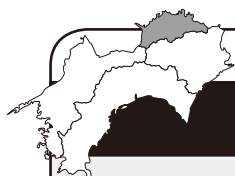
- ・アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、説明することができる。
- ・文章作成の技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
- ・自らの授業に文章作成の技法を導入することができる。

内容

0. はじめに
1. アクティブ・ラーニングのメリット・デメリット
2. “ディープ・アクティブラーニング”を目指して
3. 協同学習・文章作成の技法
4. 授業計画の作成
5. おわりに

▶準備物について

ご自分の授業のシラバスがあればご持参ください。



プログラム番号 K-008

学生の学びを促すシラバスの書き方

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一（香川大学大学教育基盤センター）

日時

12月26日(月)13:00~14:30

場所

香川大学幸町キャンパス研究交流棟6階第一講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メー切

開講日2週間前

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

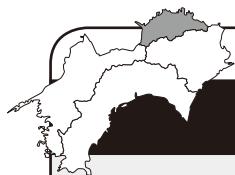
- ・シラバスの定義を説明することができる。
- ・適切な目的を書くことができる。
- ・適切な目標を書くことができる。
- ・効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
- ・適切な評価方法を書くことができる。

内容

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名の書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 評価に関わる情報の書き方
7. 授業計画の書き方
8. 教材に関わる情報の書き方
9. オフィスアワーの書き方
10. 受講のルールの書き方

▶準備物について

ご自分の授業のシラバスがあればご持参ください。



プログラム番号 K-009

基礎から学ぶ学習評価法

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤慶太（香川大学大学教育基盤センター）

日時

12月26日(月)14:40~16:10

場所

香川大学幸町キャンパス研究交流棟6階第一講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メー切

開講日2週間前

申込先・問合せ

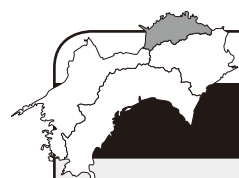
香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. 成績評価の学習支援機能について説明することができる。
2. 学習目標に応じた評価方法を選択することができる。
3. 代表的な評価方法の特徴について説明することができる。

内容

1. 成績評価の目的
2. 学習支援のための成績評価
3. 成績評価の基本
4. さまざまな評価方法
5. よりよい成績評価のための工夫
6. まとめ

プログラム番号 K-010 **New!!**

学生参加型授業の技法

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

西本佳代 (香川大学大学教育基盤センター)

日時

12月27日(火)13:00~14:30

場所

香川大学幸町キャンパス研究交流棟6階第一講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メ切

開講日2週間前

申込先・問合せ

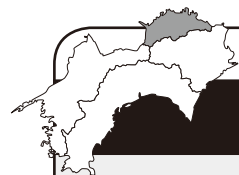
香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

- ・学生参加型授業の技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
- ・アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、説明することができる。

内容

0. はじめに
1. アクティブ・ラーニングとは
2. 協同学習の技法
3. おわりに



プログラム番号 K-011

「アカデミック・スキル」をどう教えるか

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一 (香川大学大学教育基盤センター)
佐藤慶太 (香川大学大学教育基盤センター)

日時

3月2日(木)13:00~14:30

場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メ切

開講日2週間前

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

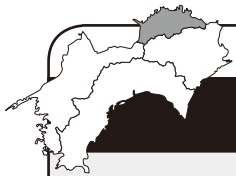
1. 「情報整理の方法」を教える際のポイントを理解することができる。
2. 「レポートの書き方」を教える際のポイントを理解することができる。
3. 「プレゼンテーションの方法」を教える際のポイントを理解することができる。

内容

1. はじめに
2. 「情報整理の方法」の教え方
3. 「レポートの書き方」の教え方
4. 「プレゼンテーションの方法」の教え方
5. 質疑応答

▶参考資料

香川大学 大学教育基盤センター編「大学入門ゼミハンドブック」
(参加者には配布いたします。)



プログラム番号 K-012

New!!

「日本語技法」をどう教えるか

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

高水 徹 (香川大学インターナショナルオフィス)

日時

3月7日(火) 13:00~15:10 (休憩10分)

場所

香川大学幸町北キャンパス4号館422講義室

受講定員

50名

主催

香川大学 大学教育基盤センター

メ切

開講日2週間前

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail: gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

6つの日本語技法に関して、学生の立場に立ってモデル授業を体験することにより、指導時のポイントを理解する。

内容

以下の6つの汎用的な日本語技法に関して、学生の立場に立ってモデル授業を体験する。

技法1：教職員へのメールの書き方

目標：大人としてのマナーを守り、情報として過不足のない用件のメールを書くことができる。

技法2：書き言葉による手順の説明

目標：手順を言語化し、聞き手にわかりやすく伝えることができる。

技法3：推敲の技法

目標：文章を整理し、理解しやすく、誤りのない状態に仕上げることができる。

技法4：比較・対照の技法

目標：適切な表現を用いて、2つの物事を比較・対照し、文章で表現できる。

技法5：箇条書きの技法

目標：文章のポイントを箇条書きでまとめ

ることができる。

技法6：要約の技法

目標：文章の内容を、必要な情報を損なわずに要約することができる。

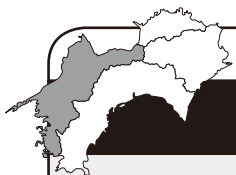
これらの技法は、プレゼンテーションやレポート作成等のアカデミックな活動の基礎となる、学生にとっての不可欠なスキルであるばかりではなく、卒業後も応用可能なものである。これらの技法の向上は、高度な専門性の習得をスムーズに行えるようにするための土台作りである。

▶参考資料

香川大学 大学教育基盤センター編
「大学入門ゼミハンドブック」
(参加者には配布いたします。)

▶受講者の声

- ・文章を書く技法について、理解を深めることができた。
- ・文章のまとめ方については、苦手な学生が多いように思う。
どのように教えればいいのかは、各自工夫が必要である。



プログラム番号 I-001

効果的なグループワークの進め方 (春期FD・SDスキルアップ講座)

FD

主な対象

授業でのグループワークやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

日時

4月5日(火) 15:30~17:30

場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

40名

主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)

メ切

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる。
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる。
3. グループワークを導入することのメリットとデメリット、導入時に注意すべき点を列挙できる。

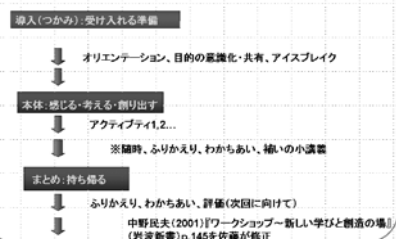
内容

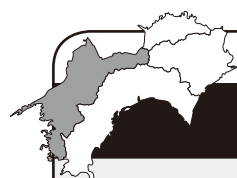
1. アイスブレイク
 - ・自己紹介
2. グループワークを体験する
3. 成功するグループワークのカギ
4. グループワークの進め方
 - ・グループワークの流れ
 - ・ファシリテーターの基本スキル
5. グループワークの必須アイテム
6. 振り返りと質疑応答

▶受講者の声

- 私にとっては目からうろこでした。グループワークだけでなく日頃の授業にも活かせる内容だったと思います。
- グループワークの具体的な進め方に関して理解することが出来た。

4. グループワークの進めかた





プログラム番号 I-002

学習評価の基本〈春期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD

主な対象
学習評価に関わる教員

対象校
SPOD全加盟校

目標
右記参照

講師
中井俊樹 (愛媛大学教育企画室)

日時
4月6日(水) 10:00~12:00

場所
愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

受講定員
40名

主催
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)

***メー**
要問い合わせ

申込先・問合せ
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

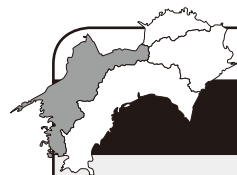
- (1) 学習評価の意義と目的を説明することができる。
- (2) 到達目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
- (3) 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
- (4) 公正で厳密な成績評価を行うことができる。

内容

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 優れた評価の条件
7. 評価のさまざまな側面

▶参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)

夏目達也, 近田政博, 中井俊樹, 齋藤芳子 (2010)『大学教員準備講座』(玉川大学出版部)



プログラム番号 I-003

会議マネジメント〈春期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD

主な対象
教員

対象校
SPOD全加盟校

目標
右記参照

講師
丸山智子 (愛媛大学教育企画室)

日時
4月6日(水) 13:00~15:00

場所
愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

受講定員
40名

主催
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)

***メー**
要問い合わせ

申込先・問合せ
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

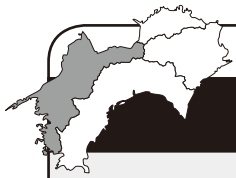
1. 会議のマネジメントプロセスについて説明できる
2. 会議を進める上で準備すべき事を理解できる
3. 会議を効果的・効率的に運営するために必要な手法を説明することができる
4. 会議のまとめ、及び会議後のフォローの注意すべき点を列挙できる

内容

会議 (ミーティング) は「意見の異なるもの同士が、議論の末に高次の合意点をみつけるもの」であることが望まれます。そのような会議を実現するため、ファシリテーションの重要性を理解し、マネジメントのプロセス、具体的な手法について学びます。

▶受講者の声

- ・会議ファシリテータの役割は大きく、議論の行方、成否を握っていることがよく分かりました。ディスカッションを行う授業に応用できると思います。
- ・私は会議をマネジメントすることはほとんどない立場ですが、今回の研修内容は「1人の参加者」として会議に出る人にも十分に有意義な内容だったと思います。
- ・「論点がズレる理由」は目からウロコでした。
- ・会議の中身について分析したことがなかったので、初めて自覚することが多く、今までうまくいかなかった原因によりよく気づけた。
- ・少しうまく進めるための道が見えてきた気がします。



プログラム番号 I-004, I-007

授業デザインワークショップ

FD

*主な対象

- ・愛媛大学教員のうち、下記のいずれかに該当する者
- ①新規採用された教員（大学の授業担当経験5年以上を除く）
- ②新たに大学の授業を担当した教員
- ③昨年度対象者で都合により欠席した該当教員
- ④参加を希望する教職員・SPOD加盟校教職員のうち、参加を希望する者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
5. 学習者の学習を促す要因を説明できる。
6. グループ学習の手法を、自らの授業で導入するためのヒントを得る。

*講師

小林直人, 中井俊樹, 仲道雅輝, 村田晋也, 清水栄子, 小林忠資, 加地真弥(愛媛大学教育企画室) 他

*日時

7月2日(土)~3日(日)(第26回)
8月31日(水)~9月2日(金)(第27回)

*場所

いまばり湯ノ浦ハイソ
(7月, 第26回)
愛媛大学愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2
(9月, 第27回)

*受講定員

7月 20名
9月 30名

*主催

第26回: 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)
第27回: 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

内容 (二日間ワークショップ場合)

1日目

1. オリエンテーション
 - ・研修の目的・目標の確認
 - ・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング
 - ・自己紹介とグループワーク
 - ・アイスブレイキングの意義
3. 講義 I
4. 講義 II
 - 「何が学生の学びを促進するのか？」
 - 「シラバスの書き方」
 - ・目標設定の立て方
5. 講義 III
 - 「コース設計&クラス設計の考え方」
 - ・1科目(コース)の授業計画の立て方
6. グループワーク I
 - 「共通教育科目の開発 I」
 - ・目標設定
 - ・授業計画
 - ・シラバス作成
7. 講義 IV
 - 「様々な授業方法」
 - ・講義形式のメリット・デメリット
 - ・双方向型授業のコツ
 - ・体験型授業
 - ・参加型授業
8. グループワーク II
 - 「共通教育科目の開発 II」
 - ・授業計画と評価計画
9. 講義 V
 - 「学習評価の基本」
 - ・学習評価の目的
 - ・評価の方法と評価対象
10. 中間発表
11. 講義 VI
 - 「クラス設計」
 - ・90分授業の基本構成
 - ・90分(クラス)の授業計画
12. グループワーク III
 - 「共通教育科目の開発 III, IV」
 - ・授業計画案作成

2日目

13. グループワーク IV
 - 「共通教育科目の開発 IV」
 - ・模擬授業練習
14. 模擬授業
 - 「模擬授業(導入の10分)」
 - ・授業紹介
 - ・模擬授業
 - ・討議・検討
15. 振り返り

※第26回は1泊2日の宿泊研修。

※第27回は3日間宿泊なしの研修。第26回と同じ内容となっております。

▶参考資料

佐藤浩章 編『大学教員のための授業手法とデザイン』(玉川大学出版部)

▶受講者の声

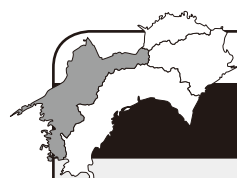
「当初はあまり乗り気ではなかったが、スタッフの教育に対する姿勢と知識に驚かされてとても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。」

「専門を異にする他学部の教員と専門外のシラバスを作るという作業は、様々な考え方や物の見方に触れることができ、刺激に満ちたものだった。」

「キャンパスから離れた場所で、短期間で集中して取り組むことができました。タイトスケジュールでしたが内容の充実した研修が展開され、参加したことに一層大きな意義を感じました。数多くのグループワークを通して、学生の立場から改めて授業運営を見つめ直すことができました。」

「研修を通じて、授業の意味や教員の役割を改めて考えることができ、学生の視点やレディネスについて意識するようになった点が良かったと思います。独り善がりな授業にしたいと強く思うようになりました。今回学んだことは、断続的に実践していきたいと思います。私は授業経験がなく不安を感じながら参加しましたが、分かりやすい講義内容だし、グループワークにも参加しやすく、構えなくても参加できる研修でした。このような有意義なワークショップにもっと多くの教員が参加することを望みます。」





プログラム番号 I-005

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

FD

*主な対象

TP作成後1年を経過している教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

清水栄子(愛媛大学教育企画室)ほか

*日時

7月8日(金)10:00~16:30

*場所

愛媛大学愛大ミュージズ

*受講定員

約10名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

ティーチング・ポートフォリオ(TP)を更新する。

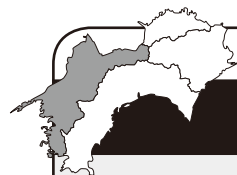
内容

ティーチング・ポートフォリオの作成に終わりはありません。今回はティーチング・ポートフォリオの更新を目的として6時間30分のワークショップを実施し、参加者と一緒に、より良いティーチング・ポートフォリオの作成を行います。

1. オリエンテーション 全体説明・TPについてのおさらい
2. メンタリング・セッション(2人1組)
 - ・相互のTPを読む
 - ・相互メンタリング
3. ランチタイム
 - ・更新予定発表(全体)
4. 更新タイム(個人)
5. メンタリングに関するディスカッション(全体)
6. 更新タイム(個人)
7. TP更新の感想と振り返り(全体)

▶事前準備

事前にご自身のティーチング・ポートフォリオを読み返し、更新が必要な箇所の検討を付けておく。更新に必要なエビデンスを準備する。



プログラム番号 I-006

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

小林直人、清水栄子(愛媛大学教育企画室)ほか

*日時

7月9日(土)~10日(日)
(2日間)

*場所

愛媛大学愛大ミュージズ

*受講定員

10名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを理解する。
- ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶準備物

事前に課題(スタートアップシート)を作成・提出していただきます。

▶参考資料

ピーター・セルディン 著(2007)『大学教育を変える教育業績記録ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』大学評価・学位授与機構監訳 栗田佳代子訳(玉川大学出版部)
TP完成サンプル

内容

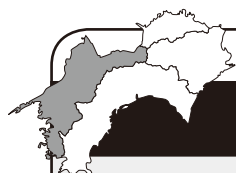
2日間を通しての参加となります。メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業(夜)情報交換会(任意)

<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 I-008

効果的なeラーニングの活用方法(超入門編) (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

*主な対象

eラーニングを授業に取り入れてみたい、eラーニングをどのように活用したら良いかわからないなど、eラーニングに興味をもっている教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝 (愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育企画室)

*日時

9月12日(月)10:00~12:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

24名程度

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法が知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探していきます。

※研修時にeラーニングソフト(Moodle)の操作等はいりません。

1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

▶準備物

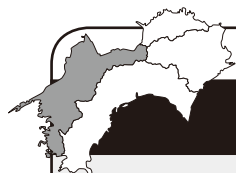
ご自身のシラバスもしくは授業計画等をご持参ください。

▶参考資料

『大学におけるeラーニング活用実践集』(ナカニシヤ出版)

▶受講者の声

- ・先生に気軽に質問ができる雰囲気よかった。
- ・eラーニングの基本が理解できた。
- ・授業の問題点をeラーニングで解決できるとわかった。
- ・著作権に注意が必要ことを知った。
- ・様々な事例を知ることができた。
- ・LMSを使った場合の問題点やアイデアを共有できた。



プログラム番号 I-009

英語で授業をしたい教員のためのワークショップ (夏期FD・SDスキルアップ講座)

FD

*主な対象

教員(職員も受講可能)

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

ルース・バーজন (愛媛大学国際教育支援センター) ボグダン・ディビッド (愛媛大学教育学部)

*日時

9月12日(月)13:00~15:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

英語で授業をするときの一般的なガイドラインを説明できる。ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。
To learn some general guidelines for teaching in English.

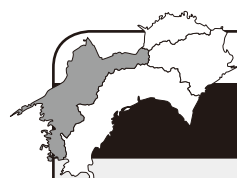
内容

1. 創成授業「異文化のまなざし」での事例報告
2. 英語で授業をする際の一般的なガイドラインについて
3. 質疑応答と休憩時間
4. グループワーク
5. まとめと振り返り

1. Report on the Issues in Research classes
2. Go over general guidelines for teaching in English
3. Q&A/short break
4. Use of Moodle forums
5. Time management
6. Group work
7. Summing up

▶参加者の声

- 久しぶりにネイティブの英語を生で聴けた。
- グループディスカッションの重要性がよく分かった。
- 体験とレクチャーのバランスが良かった。



プログラム番号 I-010

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ〈高専対象〉

FD

*主な対象

教員（教育力向上を目指し参加を希望する教員、教育歴5年以上を目安とします）

*対象校

SPOD加盟校（高専のみ）
※高専を対象としています。SPOD加盟校からの希望者があれば、参加状況により、受け付ける場合がありますので、ご連絡ください。

*目標

右記参照

*講師

松本高志（阿南工業高等専門学校）、清水栄子（愛媛大学教育企画室）ほか

*日時

9月23日（金）～25日（日）

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

10名

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

ティーチング・ポートフォリオ（以下、「TP」という。）を用いて教員による主体的な教育力向上を目指します。TPは内省によって、教育業績を整理するだけでなく、教員が抱えている教育への情熱を振り返り、その思いを授業改善、さらに教育力向上へ結びつける教員の意識改革（主体性）を重視するものです。

TP作成者（ワークショップ参加者）は次回メンター（助言者）として参加し、他者をメンタリングすることにより更なる教育効果が上がり、TP作成者の増加のみならず、メンター養成によって相乗効果が生まれることが期待されます。

内容

プログラムは以下のとおりです。3日間を通しての参加となります。

<1日目>

12:00～12:30 オリエンテーション
12:30～13:30 昼食会・意見交換
13:30～14:30 第1回個人ミーティング
14:30～17:00 TP作成作業
18:30～20:30 情報交換会（任意）

<2日目>

9:00～10:00 TP作成作業
10:00～11:00 第2回個人ミーティング
11:00～12:00 TP作成作業
12:00～13:00 昼食会・意見交換
13:00～17:00 TP作成作業

<3日目>

9:00～10:00 TP作成作業
10:00～11:00 第3回個人ミーティング
11:00～12:00 TP作成作業
12:00～13:00 昼食会・意見交換
13:00～15:00 TP作成作業、プレゼンテーション準備
15:00～16:30 TP披露・修了式、修了証書の授与

▶研修風景



▶準備物について

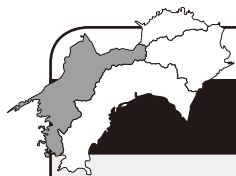
事前に課題（スタートアップシート）を作成・提出していただきます。

▶参考資料

ピーター・セルディン 著（2007）『大学教育を変える教育業績記録ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』大学評価・学位授与機構監訳 栗田佳代子訳（玉川大学出版部）

▶受講者の声

- 参加してよかったと思うことは、自分の教育活動をはじめて文書化し、体系的にまとめることができたことです。
- 一人でデスクワークで取り組むのではなく、目的を共有した仲間と同じ空間の中で取り組んだことが、集中力と作業の行き詰まりの解消のヒントを得るにはとてもよかった。



プログラム番号 I-011

アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

主な対象

ティーチング・ポートフォリオ
を作成済みの教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人、清水栄子（愛媛大学
教育企画室）ほか

日時

9月23日（金）～25日（日）
（3日間）

場所

愛媛大学愛大ミュージズ

受講定員

5名

主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク（SPOD）

メモ

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- アカデミック・ポートフォリオ（AP）とは何かを理解する。
- アカデミック・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- アカデミック・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- アカデミック・ポートフォリオを作成する。

内容

2日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. AP作成作業
（夜）情報交換会（任意）

<2日目>

1. AP作成作業
2. メンタリング
3. AP作成作業
4. 昼食会・意見交換
5. AP作成作業

<3日目>

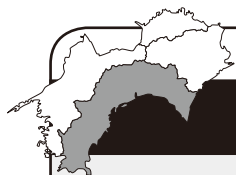
1. AP作成作業
2. メンタリング
3. AP作成作業
4. 昼食会・意見交換
5. AP作成作業、
プレゼンテーション準備
6. AP披露・修了式

▶参考資料

ピーター・セルディン、エリザベス・ミラー著『アカデミック・ポートフォリオ』
（2009）大学評価・学位授与機構監訳 栗田佳代子訳（玉川大学出版部）
AP完成サンプル

▶準備物

ご自身のティーチング・ポートフォリオ（最新版）



プログラム番号 Y-001

New!!

大学授業入門

FD

主な対象

新任教員、大学で授業担当する
教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

塩崎俊彦、立川明、杉田郁代、
俣野秀典（高知大学大学教育創
造センター）

日時

4月6日（水）9:00～12:00

場所

高知大学朝倉キャンパス共通教
育棟3号館1階311教室

受講定員

40名

主催

高知大学 大学教育創造センター

メモ

開催日3日前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・教育効果を高めるために何が必要か説明できる
- ・成績評価のやり方が説明できる
- ・効果的なふりかえりが説明できる

内容

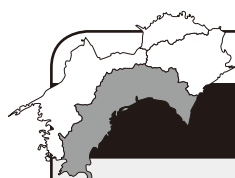
「教えられたように教える」方がほとんどだと思います。教えるのはそれでどう
にかなっても、成績評価はどうすれば良いのでしょうか？大学教育にはアクティブ・
ラーニングを導入する時代の要請がありますが、どう対処すれば良いでしょう。

この講習では、教育効果を高めるために必要な教授法の手法や、成績評価の方法
について、ワークをしながら学びます。

- ・アイスブレイキング・ブレインストーミング
- ・協同学習とアクティブ・ラーニング
- ・授業の目的・目標と成績評価
- ・ふりかえり

▶準備物

担当予定の授業のシラバスをプリントしてご持参下さい。



プログラム番号 Y-002

学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

FD

*主な対象

大学での授業担当経験 5 年未満の教員、新たに大学の授業を担当した教員および参加を希望する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 杉田郁代, 俣野秀典 (高知大学 大学教育創造センター)

*日時

8月30日(火)9:00~20:00
※夕食をはさんで、参加者相互の意見交換、模擬授業の準備作業などを行います。
8月31日(水)9:00~12:00

*場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

40名

*主催

高知大学 大学教育創造センター

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる。
4. 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる。

内容

1日目

1. オリエンテーション／アイスブレーキング
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
5. ミニレクチャー「コースデザインの考え方」
6. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
7. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
8. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
9. グループ発表「グループワーク中間報告」
10. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」

2日目

11. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
12. グループ発表
13. ふりかえり



▶参考資料

佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部
高知大学 大学教育創造センター作成『FDハンドブック Tips集1～6』
高知大学 大学教育創造センター作成『FDハンドブック Tips9』
高知大学 大学教育創造センター『授業をもっと良くできる!授業改善アンケート、ピア・レビュー、授業参観の進め方』

▶受講者の声

○授業内容改善に役立つシラバスの書き方（シラバスに準拠した授業設計）が分かった。
○シラバスに書いた情報が不十分と気付くことができ、改善点も明確になった。
○グループワークについての実践的アドバイスは大変参考になりました。
○他の大学の方とグループワークの中で話しができ、授業の進め方や方法についてヒントを教わり、各々が抱えている問題点も共有できて良かった

プログラム番号 Y-003

講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン -考え方と進め方-

FD

主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

俣野秀典 (高知大学 大学教育創造センター)

日時

9月6日(火) 10:00~12:00

場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

受講定員

30名

主催

高知大学 大学教育創造センター

メー切

開講日1週間前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件(要素)について二つ以上説明できる。
3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

▶受講者の声

- ・自分が授業をする際の引き出しが増えた。
- ・すぐに使えるようなグループ学習の手法を学べたこと
- ・協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができて、本当によかったと思います。
- ・系統的な知識を得ることができたので、授業の改善に大変参考になりました。

内容

“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。

そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習/能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技法
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. ふりかえり

プログラム番号 Y-004

New!!

はじめてみよう!アクティブ・ラーニング

FD

主な対象

アクティブ・ラーニングをはじめたい教職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

立川明 (高知大学 大学教育創造センター)

日時

9月6日(火) 13:30~15:30

場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

受講定員

40名

主催

高知大学 大学教育創造センター

メー切

開講日1週間前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・深い学びに誘うアクティブ・ラーニングには何が必要か説明できる。
- ・試験紙法の二つの方法の手順が説明できる。
- ・二つの方法に対応した良い課題の条件が説明できる。

内容

グループワークを取り入れてみたけど盛り上がらない、思ったように進まないという経験はありませんか? 参加型の要素を入れても深い学びに結びつけるには、工夫が必要です。効果的な学習を支援するための工夫に必要な要素があります。この要素を知り、具体的な2つの手法を学ぶことで、自分の授業をアクティブ・ラーニングに変えてみましょう。

▶参考資料

- ・小林昭文著「アクティブ・ラーニング入門」, 産業能率大学出版部。
- ・高知大学 大学教育創造センター作成「FDハンドブック Tips5 「TBL (チーム基盤型学習) で授業改善」」

プログラム番号 Y-005 **New!!****グループワークの技法****FD*****主な対象**課題探究実践セミナー担当教員,
グループワーク型授業担当教員***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

右記参照

***講師**塩崎俊彦, 立川明, 杉田郁代,
俣野秀典 (高知大学 大学教育
創造センター)***日時**

9月7日(水)9:30~12:30

***場所**高知大学朝倉キャンパス共通教
育棟3号館1階310教室***受講定員**

30名

***主催**

高知大学 大学教育創造センター

***メー**

開講日1週間前, 先着順

***申込先・問合せ**

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・グループワーク型授業のねらいが説明できる。
- ・知識伝授型, 課題探究型授業に適したグループワークの手法を理解する。
- ・グループワークに不可欠な省察とフィードバックの手法を理解する。

内容

グループワークを多用することで、学生の諸能力が鍛えられると期待されますが、教員が間違った指導(介入)や評価をしてしまうと台無しになってしまう場合もあります。担当者が授業のねらいを理解し、観察の観点や介入のポイントを知っておく必要があります。PBL型授業を有意義なものにするため、以下の様な内容のワークショップを行います。

- ・ミニ講義 グループワーク型授業のねらい
- ・ワークショップ
- ① アイスブレイクの手法

② 試験紙法の手法

③ 課題探究型授業の組み立て

④ ふりかえりの手法

模擬的にグループワークを行うことで、その運営方法を理解します。

グループワークのためのファシリテーション入門とあわせて受講することを推奨します。

▶受講者の声

- ・手法がよくわかるとともに、グループワークの注意点がよく学べました。
- ・スキルアップと自己のふり返りができました。ありがとうございました。
- ・正直なところ、グループワークは、自分には無理だと思っていましたが、経験してみると楽しくて、やってみれば何とかなるのではないかなと思えるようになりました。あまり難しく考えすぎずに、とにかくチャレンジしよう和前向きになれた点が良かったです。

プログラム番号 Y-006 **New!!****学生的心声を生かした授業デザイン～教育心理学の視点から～****FD*****主な対象**

教員

***対象校**

SPOD全加盟校

***目標**

右記参照

***講師**杉田郁代 (高知大学 大学教育
創造センター)***日時**

9月7日(水)13:30~16:30

***場所**高知大学朝倉キャンパス共通教
育棟3号館1階310教室***受講定員**

30名

***主催**

高知大学 大学教育創造センター

***メー**

開講日1週間前, 先着順

***申込先・問合せ**

高知大学学務部学務課

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

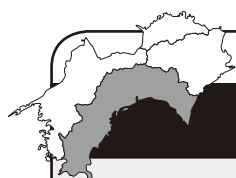
- 授業実践に可能な教授スキルを5つ以上獲得する
- 授業実践に学生的心声を導入する手法について獲得する
- 授業実践に関わる教育心理学や認知心理学の基礎的な知識を獲得する
- ユニバーサルデザインの授業実践に関わる基礎的な知識を獲得する

内容

1. 学生的心声を聴く・聞く手法について
2. 学生的心声について考える～認知心理学の視点～
3. ユニバーサルデザインの視点での授業づくり
4. 授業デザインについて考える～教育心理学の視点～
5. ペア・グループの課題や発問について考える
6. ふりかえり

▶準備物について

可能であれば、授業で使用されているリフレクションペーパーや授業評価アンケートの結果等(主に自由記述部分)



プログラム番号 Y-007

New!!

シラバスブラッシュアップワークショップ

FD

*主な対象

授業改善をしたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明（高知大学 大学教育創造センター）

*日時

1月25日(水) 13:30～15:00

*場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室（予定）

*受講定員

30名

*主催

高知大学 大学教育創造センター

*メー

開講日1週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

学習成果（ラーニングアウトカムズ）を意識してシラバスを書くことができる。
時間外学習を意識したシラバスを書くことができる。

内容

シラバスを改善することによって、教育効果を高めるため、以下の内容について自作のシラバスをブラッシュアップします。

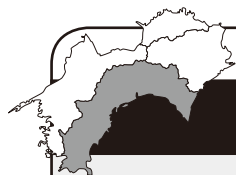
- ・成績評価しやすく学生にとってわかりやすい目標の書き方
- ・目標にリンクした成績評価の書き方
- ・目標にリンクした授業計画の書き方
- ・その他の項目の書き方

▶参考資料

愛媛大学教育企画室『Faculty Development Handbook Vol.1 第二版～もっと！授業を良くするために～』

▶準備物について

ご自身のシラバス



プログラム番号 Y-008

能動的学習支援者必須！ グループワークのためのファシリテーション入門

FD

*主な対象

グループワークを取り入れている授業担当教員およびTA等として授業の補助を行う学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦、立川明、杉田郁代、俣野秀典（高知大学 大学教育創造センター）

*日時

3月27日(月) 13:30～16:30

*場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学 大学教育創造センター

*メー

開講日1週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・グループワークを主とする授業担当者にとって必須となる能力：ファシリテーション力を身につける。
- ・グループ活動支援に必要なチームビルディングの方法を知る。
- ・チームビルディングゲームの進め方を知る。
- ・場の構築の重要性を理解する。
- ・フィードバックの重要性を理解する。
- ・ファシリテーションにおける注意点を知る。

▶受講者の声

- ・実際に体験して、アクティブラーニングの重要性がよくわかった。
- ・ファシリテーターに対する理解が深まった。
- ・ファシリテーターとして必要な能力とは何かを知ることができた。
- ・自分自身の特性を確認することができた。学習スタイルの確認、集団の中での確認、そして、総合と結びついてよかったです。

内容

一方的な講義形式の授業から学生参加型／双方向型授業への展開に対応する形で、授業のファシリテーター（学習支援・促進者）としての教員の役割の重要性が顕著になってきています。

そこで本プログラムは、グループワークを多用した授業において教員が知っておきたい授業ファシリテーションについてのマインドとスキルについて、特にチームビルディングを重点的に取り上げ、実際に体験しながら習得することを目的として実施されます。

- ・オリエンテーション
- ・導入エクササイズ「グループの作り方とアイスブレイク」
- ・グループ演習「体験学習を体験する」～振り返りと解説
- ・ファシリテーターとしての行動・姿勢
- ・全体の振り返り、分かち合い

- ※グループ演習（チームビルディングゲーム）は、参加者のニーズ・人数に応じて、下記より3～4種類をピックアップの予定。
- ・記者会見・総当たりインタビュー・学習スタイル・コンセンサスを求めて・私の価値観／ライフポジション・パスは待ってられない・グループプロセスの観察



FD/SDプログラム

(教職員対象)

プログラム番号 K-013

クリッカーで教育・研究が変わる！

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

真鍋芳樹（香川大学アドミッションセンター）

*日時

5月23日(月)13:30～15:00

*場所

香川大学幸町キャンパス研究交流棟6階第一講義室

*受講定員

30名

*主催

香川大学 大学教育基盤センター

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail : gakusenm4@jim.
ao.kagawa-u.ac.jp

目標

- ・クリッカー&制御ソフト（TurningPoint）の使用方法を習得し、実際に使用できるようになる。
- ・クリッカーを用いた教育方法ならびに研究方法の展開を考えることができる。

内容

1. TurningPointのインストール
2. プレゼンテーション資料作成
 - 2-1.新規にスライドを作成する
 - 2-2.既存のPowerPointスライドを利用する
3. プレゼンテーション事前確認
4. プレゼンテーション実行
5. 集計結果の保存
6. 集計結果の利用

▶準備物

TurningPoint または TurningPoint AnyWhere をインストールしたノートパソコンをご持参ください。

▶受講者の声

クリッカーの存在自体は知ってはいましたが、「難しそう」と思い、避けておりました。今回の講座を受講し、思ったよりも使いやすいツールであることがわかったので、まずは少人数の授業で試していきます。

プログラム番号 I-012

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計
—課題分析図の活用— 〈春期 FD/SD スキルアップ講座〉

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育企画室）

*日時

4月5日(火)10:00～12:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

24名程度

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるべきなのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。

これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。

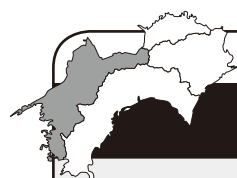
本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

▶準備物

ご自身のシラバスもしくは授業計画等

▶受講者の声

- ・学習目標の記述の具体例が示され大変参考になった。
- ・教材の内容のみではなく、学習内容の再構造化が大切だと分かった。
- ・イメージしやすい説明で大変有意義でした。
- ・集中力が途切れずに受けられ、研修会自体が授業の参考になった。
- ・簡単な演習が入っていたので考えるトレーニングになった。
- ・質問に丁寧に答えていただいた。



プログラム番号 I-013

アクティブラーニング入門セミナー〈春期FD・SDスキルアップ講座〉



FD/SD

*主な対象

教育経験の浅い教員，大学職員
全般

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

中井俊樹，小林忠資（愛媛大学
教育企画室）

*日時

4月5日(火) 13:00～15:00

*場所

愛大ミューズ1階アクティブラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教
育企画室（教職員能力開発拠点）

*メモ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

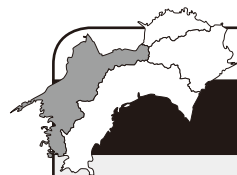
- (1)アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
- (2)アクティブラーニングの教育手法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
- (3)自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの教育手法を列举することができる。
- (4)アクティブラーニングの教育手法を実践することができる。

内容

1. 意義ある学習とは
2. アクティブラーニングとは
3. 期待される効果
4. 説明，発問，指示
5. さまざまなアクティブラーニングの技法
6. 学習課題の組み立て方
7. アクティブラーニングの課題

▶参考書（購入する必要はないが，推奨する図書）

中井俊樹編（2015）『アクティブラーニング』（玉川大学出版部）



プログラム番号 I-014

管理監督者のためのメンタルヘルス研修会

FD/SD

*主な対象

教員，事務系職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師

*日時

7月中

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学総務部人事課

*メモ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ・管理監督者として，メンタルヘルス不調が疑われる部下の早期発見のポイントと気づいた時の対応法，休職者の職場復帰支援のポイント等を習得する

内容

- ・メンタルヘルスの意義と管理監督者の役割
- ・ストレスおよびメンタルヘルスの基礎知識
- ・部下の不調を防ぐ方法と管理監督者自身のケア
- ・不調が見受けられる部下への対応
- ・休職者の職場復帰支援のポイント
- ・事例共有ワーク



▶受講者の声

- ・実際の相談事例を踏まえて説明していただき，大変分かりやすかった
- ・明日から職場でさっそく活かすことができる身近な内容だった
- ・ワークを通して具体的にいろいろな人の考えを知ることができた

プログラム番号 I-015

プロジェクトマネジメント〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉 FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

丸山智子（愛媛大学教育企画室）

*日時

8月18日（木）10:00～12:00

*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ・プロジェクトマネジメントとは何かを説明できる
- ・プロジェクトマネジメントの考え方やプロセスを説明できる

▶参考資料

プロジェクトマネジメント知識体系 < PMBOK >（PMI）

内容

1. プロジェクトとは
2. プロジェクトマネジメントとは
3. プロジェクトの成功とは
4. プロジェクトのライフサイクル
5. プロジェクトの目的の共有
6. 9つの知識エリアとプロセス
 - －プロジェクト憲章
 - －Work breakdown structure (WBS)
 - －スコープ定義
 - －リスクマネジメント
 - －ステークホルダーマネジメント
7. プロジェクトマネジャーに求められる条件
8. チームの育成
9. プロジェクトの終結

▶受講者の声

- ・プロジェクトマネジメントについて必要な能力、資質について知ることができた
- ・日常の業務に生かせる内容が多く含まれていた
- ・過去にうまくいかなかったことに対して、どうして失敗したのかその手がかりを得ることができた
- ・受け身でなく能動的な研修で良かった

プログラム番号 I-016

学生を眠らせない講義法のコツ〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉 遠隔 FD/SD

*主な対象

講義を受け持つようになって間もない教員。また、受講を希望される職員の参加も歓迎します。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

小林直人（愛媛大学教育企画室）

*日時

8月19日（金）10:00～12:00

*場所

愛大ミュージアム階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- 1 講義中に学生の集中力を維持するための様々な講義スキルを説明できる。
- 2 自分が担当する講義で活用できる講義の“パーツ”を列挙できる。
- 3 自分の講義中に複数の“シーン”を切り替えることができる。

内容

大教室でも可能なアクティブ・ラーニング（能動的学習法）の具体的な方法について皆さんと考えます。

（この講習自体が授業のメタファーです。授業の“シーン”が切り替わる様子を体験してください。）

- 1 小テストを体験してみる：「授業の“パーツ”」を列挙する
- 2 学生に質問を投げかける方法を体験してみる：大教室でのコミュニケーション
- 3 「Think, Pair, Share」の手法を体験してみる：小規模のグループワーク
- 4 質疑応答
- 5 アクティブ・ラーニングについて考えてみる：得るものと失うもの
- 6 宿題を出すことについて：授業時間外学習を促すために
- 7 まとめ

▶参考資料

- ・佐藤浩章編（2010）「大学教員のための授業方法とデザイン」、玉川大学出版部。

▶準備物について

自分が担当する授業のシラバス（もしあれば）



プログラム番号 I-017

ループリック評価入門〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

FD/SD

*主な対象

成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員、カリキュラム、プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

清水栄子（愛媛大学教育企画室）

*日時

8月19日（金）13:00～15:00

*場所

愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. ループリック評価のメリットを説明することができる。
2. 自らの授業で活用できるループリックを作成する。

※ループリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。

内容

ループリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、時間内に自らの授業で活用できるループリックの作成を目指します。

▶参考資料

ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ（著）佐藤浩章（監訳）2014『大学教員のためのループリック評価入門』玉川大学出版部
（購入の必要はありません）

ループリック評価の例		
項目	レベルA	レベルB
準備	学生の出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。	出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。
手続	学生の出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。	出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。
評価	学生の出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。	出席状況を確認し、授業の進捗を確認する。

▶準備物について

各自パソコンを持参してください。持参出来ない方は、貸出可能ですので、愛媛大学教育企画室までお問い合わせください（数量限定）。

作成したループリックは、他者と共有することができます。

1. ループリックとは何か？
2. なぜループリックを使うのか？
3. ループリックをどうやって作成するか？

ループリック作成の4段階

第1段階：振り返り

第2段階：リストの作成

第3段階：グループ化と見出し付け

第4段階：表の作成

4. ループリック作成（個人ワーク）
5. ブラッシュアップ（ペアワーク）

▶受講者の声

○ループリックとは、どのようなものであるべきか、深く理解することができました。学生・教員双方のためのループリック作りを行うことで、学習意欲を引き出せるのではないかと思います。

○これまでレポートや授業記録を提出させた後、教員コメントを書くのに手間・時間をかけていたので、今後は効率よく評価できると思います。また、授業態度の評価基準もきちんとしたものではなかったの、学生との合意でやれるのが双方のメリットになると思います。

プログラム番号 I-018

講義のための話し方入門〈夏期 FD・SD スキルアップ講座〉

遠隔 FD/SD

*主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって間もない教員（1-020とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も歓迎です）。また、職員の参加も歓迎します。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

小林直人（愛媛大学教育企画室）、
飯島永津子（愛媛大学医学部教育協力者）

*日時

8月19日（金）15:30～17:30

*場所

愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*メー

開講日1週間前

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために「よい」授業ができるようになる。

⇒「良い」授業とは？

- ・わかりやすい授業
- ・知的な緊張感のある授業
- ・学生が積極的に参加し自ら考える授業

2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

内容

1. イントロダクション

- ・本日のメニュー
- ・本日の目的と目標

▶受講者の声

- 子音でわかりにくい言葉の事例を聞いて納得。
- 自分では声は大きいし、大丈夫と思ってましたが、話し方には話す内容も大事だということをも再認識しました。

▶参考資料

・佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部。

2. 講師が気をつけていること

- ・学生にとってわかりやすい話し方とは？
- ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
- ・発音しにくい言葉
- ・区別しにくい言葉

3. 実例を元に演習

- ・聞き手が理解しやすい話し方
- ・どう話すか？の前に何を話すか？

4. 休憩とストレッチ

5. 外部講師（教育協力者）による発声練習

- ・大きな声を出すためには？
- ・はっきりと発音するためには？

6. まとめ・セルフアセスメント

- ・あらためて、「良い」授業とは？

7. 質疑応答

どうしたら
分かりやすい話し方ができるか？

—小林が気をつけていること—

- ・ゆっくり話す・大きな声で話す
- ・子音をはっきり話す
- ・否定後や文末を強調する
- ・アイ・コンタクトして話す
- ・聞き手に近寄って話をする
- ・特に抑揚をつけて前後に間を入れて何度も繰り返して
- ・キーワードを強調して話す
- ・紛らわしい言い方は避ける
- ・板書やプリントを併用する



プログラム番号 I-019

New!!

FD 担当者研修

FD/SD

*主な対象

FDを担当する教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

中井俊樹、清水栄子、小林忠資
(愛媛大学教育企画室)

*日時

8月23日(火)13:00~18:00

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

30名

*主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク (SPOD)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

この研修は各大学でFDの企画や実施の担当者を対象とした研修です。
以下の6つの目標の達成を目指します。

1. FDとは何かを説明することができる。
2. FDプログラムの立案手順を説明することができる。
3. 研修技法について説明することができる。
4. FDプログラムの評価手法について説明することができる。
5. FDプログラムを作成することができる。
6. FD担当者間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする。

内容 (予定)

1. オリエンテーション
2. FD概論
3. FDプログラムの立案
4. FDプログラム作成と研修技法の選択・手順
5. 研修当日の流れ
6. 研修の評価

プログラム番号 I-020

大人数講義法の基本〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉

遠隔のみ

FD/SD

*主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになって
間もない教員 (I-018とセットで受講する
ことが推奨されますが、単独受講も歓迎で
す)。また、職員の参加も歓迎します。

*対象校

SPOD全加盟校 (愛媛大学からの遠隔
配信を受信できること、または受信で
きる施設にて受講すること)、ただし、
愛媛大学内では受講できません。

*目標

右記参照

*講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

*日時

9月6日(火)13:00~15:00

*主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク (SPOD)

*その他

開講日1週間前

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

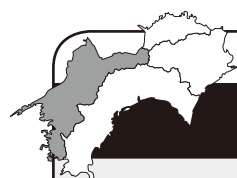
1. 「学生中心の大学」の実現のために
“良い” 授業ができるようになる。
⇒ “良い” 授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が積極的に参加し能動的に
考える授業
2. 様々な授業スキルを、実際の体験
を通して習得し、習得したことを
自分の授業に生かすことができる。

内容

1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 参加/体験型授業の例：グループワーク
を経験する
4. 「キーワード」を明示する
5. 休憩と質疑応答
6. 「板書」「プリント」の基本テクニック
7. 学生との「コミュニケーション」の基
本テクニック
8. まとめとセルフアセスメント：あらた
めて、「良い」授業とは？

▶受講者の声

- 遠隔でこのような授業が可能であることを知ることができた点。
- 時間外学習についての考え方やツールがあることを知ることができた。
- 学生の反応を知る方法を獲得できた。
- 大教室でのコミュニケーションの手法が学べた。授業時間外学習を促すことが大事だ
ということがわかった。



プログラム番号 I-021

**学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID) 入門
 - ARCS 動機づけモデルの活用 - (夏期 FD・SD スキルアップ講座)**

FD/SD

* 主な対象

授業等において、改善したい課題を持っている教員もしくは、インストラクショナルデザインに関心がある教職員。

* 対象校

SPOD全加盟校

* 目標

右記参照

* 講師

仲道雅輝（愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育企画室）

* 日時

9月13日(火) 13:00～15:00

* 場所

愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

* 受講定員

24名程度

* 主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

* メ切

開講日1週間前

* 申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

* 目標*

1. 「インストラクショナル・デザイン（ID／教育設計）」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法（ARCS動機づけモデル）を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

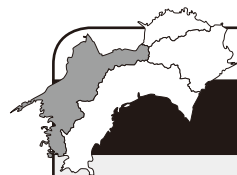
* 内容*

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン（教育設計）（以下、IDという）の中から、学習者を動機づけるための手法（ARCS動機づけモデル）や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

▶ 準備物について ご自身のシラバスもしくは授業計画等をご用意ください。

▶ 受講者の声

- ・ 具体的な改善点が見えた。
- ・ 学生目線での授業を設計する必要性を感じた。
- ・ 自身の授業改善のヒントを得られた。
- ・ 改善のためのツールを闇雲に取り入れるのではなく、体系的に設計することの必要性が理解できた。



プログラム番号 I-022

パワーポイントの基本的な使い方 (夏期 FD・SD スキルアップ講座)

FD/SD

* 主な対象

パワーポイントの基本から、図形・写真・グラフ・動画の挿入・アニメーションについて学びたい方

* 対象校

SPOD全加盟校

* 目標

右記参照

* 講師

都築和宏（愛媛大学総合情報メディアセンター）

* 日時

9月15日(木) 14:00～16:00

* 場所

総合情報メディアセンター演習室4

* 受講定員

40名

* 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

* メ切

開講日2週間前

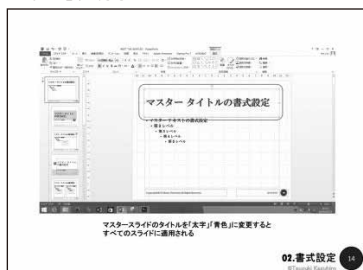
* 申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

* 目標*

1. 書式とアウトライン
2. 文字・図形・写真・グラフの挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
4. アニメーションを使う

▶ 参考資料



* 内容*

1. 書式設定とアウトライン
 - ・ スライドマスターを使って全体統一
 - ・ アウトラインでプレゼンの骨格作り
2. スライドをつくる
 - ・ 文字の大きさを変える
 - ・ 図形の挿入
 - ・ ヘッダとフッタについて
 - ・ 画像データを貼り付ける
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
 - ・ 音声や動画データを挿入する
4. アニメーションを使う
 - ・ オブジェクトに動きをつける
 - ・ スライド間に動きをつける
5. 最終調整、資料準備編
 - ・ スライドの印刷
 - ・ スライドショー

◆ 講座概要

この講座では、PowerPointを初歩から基本的な機能全般を解説します。今まであまり使ってこなかった方、改めて基礎から勉強したいという方向けの講座です。

プログラム番号 I-023

eラーニング活用（入門編）ー学習支援システム Moodle を活用して
きめ細やかな学習支援を実現しようー（夏期 FD・SD スキルアップ講座）

FD/SD

*主な対象

Moodleを使ってみたい、
Moodleで何ができるのか、
操作できるようになりたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐々木隆志（愛媛大学総合情報メディア
センター）、仲道雅輝（愛媛大学総合
情報メディアセンター兼教育企画室）

*日時

9月16日（金）13:00～15:00

*場所

総合情報メディアセンター演習室

*受講定員

40名

*主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク（SPOD）

*メ切

開講日2週間前

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学習支援システム（LMS）Moodleを操作できるようになる。
2. Moodleを活用したeラーニングについて説明ができる。
3. Moodleでコースを作成できる。

内容

1. Moodleコースが開設されるまで（登録方法）
2. Moodleとは
3. コースへのログイン
4. コンテンツ（文書＆動画）のアップロード
5. フォーラム（掲示板）によるディスカッション
6. レポート課題の提出
7. 小テストの作成と実施
8. アンケート機能
9. 採点と成績（評定）の管理
10. メールの送信（クイックメール）
11. 受講ログの確認

▶参考資料

「大学におけるeラーニング活用実践集」（2016）、大学eラーニング協議会監修、
日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版。

▶受講者の声

「資料が充実していて、わかりやすく受講できました。」
「学生とのコミュニケーションが出来き、細かい指導が可能だと思いました。」



プログラム番号 I-024

動画教材作成法（夏期 FD・SD スキルアップ講座）

FD/SD

*主な対象

動画編集の基礎と動画を取り入
れた研究発表を行いたい方

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

都築和宏（愛媛大学総合情報メ
ディアセンター）

*日時

9月23日（金）14:00～16:00

*場所

総合情報メディアセンター演習室3

*受講定員

40名

*主催

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク（SPOD）

*メ切

開講日2週間前

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

1. Windowsムービーメーカーの
基本操作の習得
2. 動画編集の習得
3. PowerPointで動画を表示

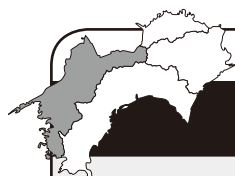


内容

1. Windowsムービーメーカーとは
2. 動画編集（カット、並び替え、
長さの調整など）
3. テロップの表示
4. 各種形式ファイルへの書き出し
5. ムービーの再生
6. PowerPointでの表示

▶受講者の声

「授業で、例えば実験操作を映像にとって学生に示すことに役立てようと思っている。」
「初めて動画の取り込みを経験したので是非講義に試してみた。」



プログラム番号 I-025

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 FD/SD

*主な対象

これから授業を担当する教員、
これまで作ったシラバスをより
よいものにしたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

仲道雅輝（愛媛大学総合情報メ
ディアセンター兼教育企画室）

*日時

12月15日(木)10:00～12:00

*場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

24名程度

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教
育企画室（教職員能力開発拠点）

*大切

要問い合わせ

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ①シラバスの役割を説明できる。
- ②授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
- ③適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
- ④学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

内容

1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か？
・定義
3. 授業題目・キーワードの書き方
・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
・到達目標の書き方
6. 授業内容・スケジュールの書き方
・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組みさせるコツ
・eラーニングを活用した課題への取り組みせ方

8. 受講条件の書き方

- ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止

9. 受講ルールの書き方

- ・受講のマナー

10. 教材に関わる情報の書き方

11. 評価情報の書き方

▶準備物

ご自分の授業のシラバスをご持参下さい

▶参考資料

『FDハンドブック第1巻』『FDハンドブック第2巻』、愛媛大学教育企画室作成。
・鈴木克明著（2002）『教材設計マニュアル－独学を支援するために－』、北大路書房。

▶受講者の声

- ・具体例が提示されており、自分のシラバス作成における対策がよくわかった。
- ・目標が成績評価項目になるという点が実感できた。
- ・自分が作成していたシラバスの良い点、改善点がわかった。
- ・評価の記述方法がわかった。
- ・個別の質問に丁寧に答えていただけた。





SDプログラム

(職員対象)

プログラム番号 I-028, K-015, T-004, Y-010

次世代リーダー養成ゼミナール

SD

*主な対象

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする
- ・各機関の長が推薦する者
- ・SPOD加盟校の職員
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

第1回 5月26日(木)～28日(土)
 第2回 7月21日(木)～23日(土)
 第3回 10月27日(木)～29日(土)
 第4回 1月19日(木)～20日(金)

*場所

第1回 愛媛大学
 第2回 香川大学
 第3回 徳島大学
 第4回 高知大学

*受講定員

10名

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
 E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に学び、「巻き込み力」を発揮する人材を養成する。

目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要な以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用する。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用する。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用する。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要な以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行う。
- ・企画策定・提案を行う。
- ・判断を行う。
- ・折衝・調整を行う。
- ・後継者育成を行う。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※講義科目については、SPOD加盟校職員も受講可能

内容

プログラムは、「講義」「プロジェクト」「SD 実践・演習」の3つの柱とし、段階的・体系的・継続的に開講する。

【1年目】

第1回 1日目

- ・次世代リーダー養成ゼミナール受講にあたって（決意表明）
- ・講義「リーダーシップ論Ⅰ」
- ・2年目生とのメンタリング実践Ⅰ

2日目

- ・2年目生によるプロジェクト実践Ⅱ 講評（進捗プレゼンテーション）
- ・講義「高等教育政策論」
- ・プロジェクトマネジメント

3日目

- ・講義「大学行政管理論（日米比較）」
- ・インストラクション・スキルⅠ（プレゼンテーションスキル）

第2回 1日目

- ・2年目生によるSD実践Ⅱ 講評（模擬講義）

2日目

- ・プロジェクト実践Ⅰ（課題設定プレゼンテーション）
- ・講義「高等教育史」
- ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）

3日目

- ・講義「高等教育戦略論」
- ・インストラクション・スキルⅡ（プログラム設計法）

第3回 1日目

- ・プロジェクト実践Ⅰ（課題設定プレゼンテーション）※プロジェクト決定
- ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
- ・2年目生によるSD実践Ⅲ（振り返り）

2日目

- ・講義「インストラクショナル・デザイン概論」
- ・2年目生とのメンタリング実践Ⅱ
- ・講義「危機管理実践」

3日目

- ・講義「人事政策論」
- ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）



- 第4回 1日目**
- ・2年目生によるプロジェクト実践Ⅲ（修了プレゼンテーション）
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
- 2日目**
- ・講義「メンター入門」
 - ・ディベート演習
 - ・SD実践Ⅰ（プログラム構築）
 - ・2年目生による発表「次世代リーダー養成ゼミナールを振り返って」
 - ・講話
 - ・修了式

【2年目】

- 第5回 1日目**
- ・SD実践Ⅰ（プログラム構築）
 - ・1年目生へのメンタリング実践Ⅰ
- 2日目**
- ・プロジェクト実践Ⅱ（進捗プレゼンテーション）
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
 - ・SD実践Ⅱ（模擬講義）※マイクロティーチング
 - ・SD実践Ⅰ（プログラム構築）
- 3日目**
- ・講義
 - ・1年目生によるインストラクション・スキルⅠ講評（プレゼンテーションスキル）
- 第6回 1日目**
- ・SD実践Ⅰ（プログラム構築）
 - ・SD実践Ⅱ（模擬講義）
- 2日目**
- ・1年目生によるプロジェクト実践Ⅰ講評（課題設定プレゼンテーション）
 - ・講義
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
- 3日目**
- ・講義
 - ・研究法概論
- 第7回 1日目**
- ・1年目生によるプロジェクト実践Ⅰ講評（課題設定プレゼンテーション）
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
 - ・SD実践Ⅲ（振り返り）
- 2日目**
- ・講義
 - ・1年目生へのメンタリング実践Ⅱ
 - ・SD実践Ⅳ（トップリーダーとの対談）
- 3日目**
- ・講義
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
- 第8回 1日目**
- ・プロジェクト実践Ⅲ（修了プレゼンテーション）
 - ・プロジェクト実践Ⅳ（ゼミ指導）
- 2日目**
- ・インストラクション・スキルⅡ（シラバスのブラッシュアップ）
 - ・ディベート演習
 - ・最終口頭試問
 - ・発表「次世代リーダー養成ゼミナールを振り返って」
 - ・講話
 - ・修了式



修了要件

- ・全日程の9割以上出席
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること
- ・最終口頭試問で合格すること
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること
- ・修了後は、SPODのSD講師に登録すること

▶受講者の声

- ・大学人生の中で、一番大変だったが、充実した2年間であり、これからの人生に大きく影響していくことは、間違いないと思う。
- ・自分のキャリアを振り返るのに良い機会となり、講師陣・先輩・同期・後輩と貴重な関係を構築し、刺激を受けていく中で、自分を見つめることができた2年間だった。
- ・自分が求めているものと組織が自分に求めているものを意識し、比較するようになった。
- ・外部の著名な先生方の講義を受講することにより、今行っている業務以外の大学職員として身に付けるべき俯瞰的な知識を得ることができた。また、その後の情報交換会でも、本音のお話を聞くことができ、貴重な体験ができた。
- ・様々な立場の方々と深いネットワークができ、大きな刺激になった。

プログラム番号 Y-009

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）第1回 [新任職員研修] SD

*主な対象

新任職員（H27年4月2日～
H28年4月1日採用の職員）

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

*講師

丸山智子、吉田一恵、久保秀二（愛媛大学）、貞弘展広、吉岡暉（高知大学）、森晃彦（高知工科大学）、末本美千代（高知工業高等専門学校）

*日時

5月9日(月)～11日(水)
(2泊3日)

*場所

高知大学

*受講定員

80名

*主催

高知大学、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

高知大学総務部人事課
E-mail: kj08@kochi-u.ac.jp

内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、6つの研修科目を実施する。

■高等教育職員入門

概要（目的）

- ・職員として自覚を持って業務を遂行する第一歩として、大学等を取り巻く状況を理解し、最低限必要な知識を身につける。

目標

- ・大学・短大・高専を取り巻く状況について説明することができる。
- ・これからの職員の役割や求められる能力について説明することができる。

■メンタルヘルス・セルフケア

概要（目的）

- ・業務を行っていく上で最低限必要なメンタルヘルスの知識を習得する。

目標

- ・メンタルヘルスの重要性について説明することができる。
- ・自己のメンタルの状況を把握することができる。

■コミュニケーション入門

概要（目的）

- ・コミュニケーション能力の向上を図るために、コミュニケーションスキルに関する基礎的な知識・技能・態度を身につける。

目標

- ・職場におけるコミュニケーションの必要性を説明することができる。
- ・自身の考えを分かりやすく伝えることができる。
- ・相手の意図を的確に汲み取ることができる。

■ビジネスマナー入門

概要（目的）

- ・業務を円滑に遂行するために、職員として最低限必要なビジネスマナーの基礎知識の習得と立ち居振る舞い等の基本動作を身につける。

目標

- ・業務における文書作成のルールを説明することができる。
- ・メールのマナーを説明することができる。
- ・基本的な来訪者対応・電話対応を行うことができる。
- ・整理整頓を行うことができる。
- ・報告・連絡・相談の重要性を説明することができる。

■危機管理入門

概要（目的）

- ・職員が業務を行っていく上で最低限必要な危機管理について学ぶ。

目標

- ・危機管理の基本について、説明することができる。
- ・危機が発生した場合、先ず自身がとるべき行動について、優先順位をつけることができる。

■キャリア形成入門

概要（目的）

- ・充実した職業生活（キャリア）を設計するために、自身のビジョン・適性等を明らかにし、自発的な能力開発・向上の意識を涵養する。

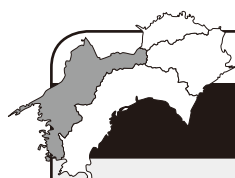
目標

- ・自身のキャリアを振り返ることができる。
- ・自身の興味・適性・能力（キャリア・アンカー）等を説明することができる。
- ・自身のキャリアプランを作成することができる。

▶受講者の声

- ・自分と同じ新人職員の人柄や目標を知ることができ、よい刺激を受けることができた。
- ・キャリアについては他の方と協力することで自分だけでは気づけない自分を見つけることで、より一層深く考えることができた。
- ・大学職員・社会人としての基礎的なビジネススキルを身につけることに重点を置いた研修として、非常に充実した内容だった。今後の業務にすぐに活かせることができ、名刺交換やビジネスマナーなど、新社会人はもちろんのこと、社会人経験者にとっても再確認や新発見が出来る研修であった。
- ・グループワークを中心とし、私がイメージしていたいわゆる“受け身”型の研修とは大きく異なっており、研修の雰囲気も決して重く堅いものではなく、参加していて非常に楽しいものであった。





プログラム番号 I-034

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）第2回 **SD**

* 主な対象

係員相当級の職員

* 対象校

SPOD全加盟校

* 目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

* 講師

SPOD内講師

* 日時

11月17日(木)～18日(金)
(1泊2日)

* 場所

愛媛大学会議室

* 受講定員

40名

* 主催

愛媛大学、四国地区大学教職員
能力開発ネットワーク（SPOD）

* 大切

要問い合わせ

* 申込先・問合せ先

愛媛大学教育企画課

E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

* 内容 *

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）のうち、3つの研修科目を実施する。

■ タイムマネジメント論

* 概要（目的） *

・ 目標を達成するために時間を有効活用し、仕事を効果的・効率的に進めるための技術について理解する。

* 目標 *

- ・ 効率的な時間の使い方を説明することができる。
- ・ スケジュールの優先順位をつけることができる。
- ・ 業務上の個人・係レベルのスケジュール計画・管理を行うことができる。
- ・ 段取りの基本テクニックを習得し、日常業務への展開を図ることができる。
- ・ 仕事がかどる基本習慣を築くことができる。



■ リーダーシップ入門

* 概要（目的） *

・ 業務遂行のために、リーダーシップ、フォロワーシップが重要であることを理解する。

* 目標 *

- ・ リーダーシップについて説明することができる。
- ・ フォロワーシップについて説明することができる。
- ・ 自己の仕事レベルでリーダーシップを発揮することができる。
- ・ 自己の仕事レベルでフォロワーシップを発揮することができる。

■ プレゼンテーション実践

* 概要（目的） *

・ 実践で活用するために、プレゼンテーションの基礎的な知識・技能・態度を身につける。

* 目標 *

- ・ プレゼンテーションの本質を説明することができる。
- ・ 相手に伝わる話の内容を組み立てることができる。
- ・ プレゼンテーションに必要な技法を説明することができる。
- ・ プレゼンテーションに必要な技法を使うことができる。



▶ 受講者の声

- ・ グループメンバーとして係員の立場でも自分の役割を把握しリーダーシップを発揮することの必要性を知り、係長や課長に対してもフォロワーとして協力していくことの大切さを理解した。
- ・ タイムマネジメント論の内容は、仕事をただこなすだけではなく、どういう気持ちをもって、どういうふうに管理するかという、日頃の業務に対してマイナスな気持ちをプラスに変える考えを得ることができた。
- ・ 普段はプレゼンテーションを行っても、その評価を受けるという経験はなかったため、自分が無意識に行っている悪いクセや目線・声の出し方などについて客観的に指摘してもらえたことはとても参考になった。

プログラム番号 I-032

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ） SD

*主な対象

係長・主任相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

*講師

阿部光伸、丸山智子、吉田一恵（愛媛大学）

*日時

10月6日（木）～7日（金）
（1泊2日）

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学、四国地区大学教職員
能力開発ネットワーク（SPOD）

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち、3つの研修科目を実施する。

■OJT実践

概要（目的）

・OJT（On the Job Training）は、職場内において日常的に行われている人材育成手法であるが、単に個人の能力の向上に留まらず、職場全体の能力向上を図るために必要な指導者としてのスキルを学ぶ。

目標

- ・OJT、メンタリング及びコーチングの意義について説明することができる。
- ・自己・他者を理解し、相手に合わせた指導ができる。
- ・コーチング手法を使うことができる。
- ・メンバーに行動変容を促す働きかけを行うことができる。

■クレーム対応実践

概要（目的）

・初期対応で収束しなかった事案に対応するため、その原因を特定し、2次対応者及び最終対応者としてのスキルと姿勢を学ぶ。

目標

- ・クレームに対する2次対応について説明することができる。
- ・初期対応者からの報告を受け、クレームの原因を特定することができる。
- ・クレームに対する適切な対応策を迅速に講じることができる。
- ・初期対応者のストレスを軽減させることができる。

■プロジェクト・マネジメント実践

概要（目的）

・組織の課題を解決するため、大学の構成員を巻き込み、イノベーションを起こすプロジェクトのマネジメント手法を学ぶ。

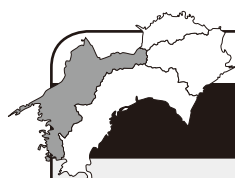
目標

- ・イノベーションを起こすプロジェクトを企画することができる。
- ・ステークホルダーを分析することができる。
- ・プロジェクト全体を成功に向けてコントロールすることができる。

▶受講者の声

- ・プロジェクト計画を立てて、スケジュールどおりに進まない場合は、原因をつきとめて次回のプロジェクト計画に反映させる手法の大切さを学べた。
- ・プロジェクトを実現させるためには、まず、課題を抽出し、現状と到達目標とのギャップを明確化することを第一歩として、実現に向けた企画・立案につなげていくべきだということを実感した。
- ・課題を設定し、2日間に渡って取り組むことで、より深く課題について考えることができた。





プログラム番号 I-031

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ） SD

*主な対象

課長，課長補佐相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

*講師

中井俊樹，吉田一恵
（愛媛大学）

*日時

9月28日（水）～29日（木）
（1泊2日）

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学，四国地区大学教職員
能力開発ネットワーク（SPOD）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育企画課
E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）のうち，2つの研修科目を実施する。

■組織マネジメント実践論

概要（目的）

・大学という組織は，大学以外の組織と異なるとよく言われます。では，大学組織は他の組織とどのような点で異なるのでしょうか。本研修では，大学組織の論理を理解した上で，実際の組織運営に活用する力を身につけます。

目標

- ・大学教員の行動原理の特徴を理解し，自分の言葉でまとめることができる。
- ・大学の組織的特徴を理解し，自分の言葉でまとめることができる。
- ・大学組織の論理を理解する枠組みを説明できるようになる。
- ・組織運営の知見を実際の大学の組織運営に活用することができる。

■危機管理特論

概要（目的）

・大規模災害，テロ等の緊急事態に遭遇した場合において，損害を最小限にとどめつつ，中核となる事業の継続，早期復旧を可能とするための事業継続計画（BCP）について学ぶ。

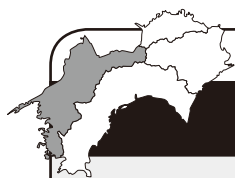
目標

- ・管理職の果たすべき責任について説明することができる。
- ・危機管理対応，管理体制の構築を行うことができる。
- ・危機管理に関する事前・事後の対応策を構築することができる。
- ・優先して継続，復旧すべき中核事業を特定することができる。

▶受講者の声

- ・他大学の現状，課題を共有し，参考になる話を聴くことができた。
- ・今回の研修は個人ワーク中心ではなく，全体で討議するチームでのワーク中心だったので，自分も直接参加でき良かった。
- ・明日からでも実践できる内容であり，すぐに活用できるスキルが身についた。





プログラム番号 I-030

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目） SD

*主な対象

情報科学応用編「Access」基礎を受講済みの職員又はAccessの基礎操作（テーブルの作成、選択クエリの作成、テンプレートによるフォーム及びレポートの作成）ができる職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる。

*講師

SPOD内講師

*日時

9月7日(水)～8日(木)

*場所

愛媛大学総合情報メディアセンター内演習室

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

パソコンを用いた演習により、Microsoft Office Access2013の活用方法を習得する。

■「Access」応用

概要（目的）

- ・データベースの基礎知識をもとに、Microsoft Office Accessの知識を深め、実務に活かすことのできる操作方法を身につける。

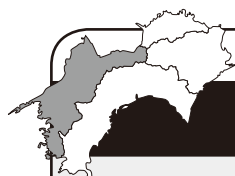
目標

- ・テーブルを活用し、リレーションシップの定義をすることができる。
- ・クエリの活用と編集をすることができる。
- ・フォームの活用と編集をすることができる。
- ・レポートの活用と編集をすることができる。

▶受講者の声

- ・ Accessの応用部分を理解し操作できるようになり、大変有意義な研修となった。
- ・ 自分で解く時間、解答の時間、復習の時間がしっかり確保されており、最後に総合問題もあったので、学んで終わりではなく得た知識を基に自分で考え解答と擦り合わせることで、理解が深まった。
- ・ 研修を受講したことで、管理データの中からAccessで管理した方がいいものが分かるようになった。今後、時間を見つけて、Accessで管理すべきものは移行していきたい。





プログラム番号 I-029, I-033

職員のための講師養成講座

SD

主な対象

【1回目】（総論）

- ・上手に教えられようになりたい職員
- ・学内での研修で講師を務める可能性のある職員
- ・将来SPOD-SD講師になる意欲のある職員

【2回目】（マイクロティーチング）

平成22年度～平成28年度職員のための講師養成講座を受講したSPOD加盟校の職員、次世代リーダー養成ゼミナールの修了生（1～5期生）で、SPOD-SD講師になる意欲のある職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

中井俊樹、清水栄子、小林忠資（愛媛大学）ほか

日時

【1回目】（総論）:

6月16日(木)～17日(金)
(1泊2日)

【2回目】（マイクロティーチング）:

11月10日(木)～11日(金)
(1泊2日)

場所

愛媛大学会議室

受講定員

【1回目】（総論）

20名

【2回目】（マイクロティーチング）

10名

主催

愛媛大学、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課

E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ・SPOD-SD講師としての心構えを持つことができる。
- ・研修プログラムをデザインすることができる。
- ・研修技法を述べることができる。
- ・研修講師を務める際に必要な知識・技法を習得することができる。

内容

【1回目】（総論）

SPOD加盟校の意欲のある職員に対して、研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD-SD講師として育成する。

内容

- ・講師に求められる役割と姿勢を説明することができる。
- ・講師として研修を設計することができる。
- ・参加者の学習を促すスキルを身につけることができる。

【2回目】（マイクロティーチング）

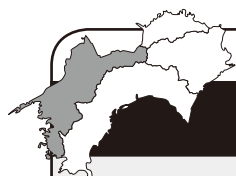
大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）の講師をすることに特化したマイクロティーチングを実施する。

※マイクロティーチングとは、教え方を学ぶ方法で、少人数で順番に短時間の講義とフィードバックを繰り返しながら、講義・説明・プレゼンのスキルアップを行う研修。教える技術だけでなく、学習者心理を経験し、フィードバック法を学ぶ。

▶受講者の声

- ・自分にまだまだ足りないもの、研修中に修正できたもの等多くのことに気づかされたと同時に、同じ題材に対しても受講者ごとにアプローチ等が異なり、新しい発見やぜひ自分も取り入れたい点が見つかるなど得るものが盛りだくさんな研修となった。
- ・テーマに分かれて少人数の受講者に担当講師が専属で担当して下さり、細かいところまで構成や進め方、受講者とのコミュニケーションの取り方等の指導を受けた。自分自身のプレゼンテーションはもちろん、同じテーマを選択している他の受講者に対する指摘事項も一緒に聞くことができ、大変参考になった。
- ・実践を意識した内容で、人前に立って話すという訓練を何度もできたことで、恥ずかしいという意識はなくなり、堂々と話すことができるようになった。



プログラム番号 I-035 **New!!**

スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ SD

*主な対象

スタッフ・ポートフォリオを作成したい高等教育機関の職員

*対象校

全国の高等教育機関

*目標

右記参照

*講師

阿部光伸、丸山智子、吉田一恵（愛媛大学）ほか

*日時

12月3日（土）～4日（日）
（1泊2日）

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

16名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

*Web

愛媛大学教育企画室ホームページ（<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>）に掲載予定

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
E-mail: kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

目標

- ・スタッフ・ポートフォリオのメリットについて説明できる。
- ・スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター、メンタリングの重要性について説明できる。
- ・自身のキャリアを振り返ることができる。
- ・自身のキャリアのビジョンについて考えることができる。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成することができる。

内容

大学職員としての自己を振り返り、メンタリングを通して今後のキャリアにおけるビジョンを明確にしながら、スタッフ・ポートフォリオを実際に作成する。

※2日間を通しての参加となります。

【1日目】

内容

1. レクチャーⅠ
「スタッフ・ポートフォリオ（SP）について」
「SPを作成することのメリット、組織にとってのメリットについて」
2. ワークショップⅠ
「職員としてのキャリアの振り返り～なぜ大学職員になったのですか？～」
3. 個人メンタリング
4. SP作成作業
5. メンターとメンティーで振り返り

【2日目】

6. レクチャーⅡ
「スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター・メンタリングについて」
7. SP作成作業
8. 個人メンタリング
9. SP作成作業&発表資料準備
10. 参加者全員でSP作成の振り返り

▶受講者の声

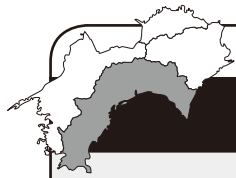
- ・自分の強みやモットーを改めて再確認・発見できるよい機会となった。
- ・今まで担当してきた業務を整理することができ、そこから自分の特徴を考えることができた。
- ・書き出すという作業によって、明確に可視化され、自分でも分かり易くなった。
- ・自分自身のことを再発見することができて良かった。また、入職後の早いタイミングでスタッフ・ポートフォリオに触れることができたことは、今後の職員生活を送る上で良い経験となった。
- ・メンタリングを受けることで、自分自身が忘れてしまっていた記憶を呼び起こすことができた。ビジョンやゴールについて絡まっていた頭の中を整理することができた。





プレFDプログラム

(大学院生対象)



プログラム番号 Y-011, Y-012

TA講習

プレFD

主な対象

2016年度第二学期および2017年度第一学期にTA、SA、FTを担当予定の者および将来担当希望の者

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

立川明(高知大学 大学教育創造センター)

日時

9月27日(火) 13:30~17:30
3月30日(木) 13:30~17:30

場所

9月27日/高知大学物部キャンパス(会場未定)
3月30日/高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟1号館4階142教室

受講定員

TA担当予定の高知大生は制限無し

主催

高知大学 大学教育創造センター

メ切

開講日1週間前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

TAを担当する上で注意すべき事が3つ言える。
TAの職務内容を3つ説明できる。
ホウ・レン・ソウの重要性が分かる。

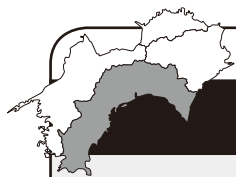
内容

TA(SA)を単なるバイトと思っていないですか? TA(SA, FT)を引き受けた時から皆さんは高知大学の職員となります。自覚を持って取り組みましょう。また、TAの皆さんには、専門知識だけでなく、マネジメント力やコミュニケーション力が求められます。メンタルヘルスも必要です。研修を受けて、知識や技能だけでなく、心の準備もしっかり付けておきましょう。

- ・グループ作り
- ・アイスブレイキング
- ・事務手続きについて(説明)
- ・TAとしての心得・注意点等(説明とグループワーク)
- ・職務内容(説明)
- ・社会人としての心得、ホウ・レン・ソウの重要性
- ・ふりかえり

▶受講者の声

- ・受講生を思いやる事。何を望んでいるのか、どのように接していくのかを考えていく事が大切だと感じました。
- ・受講生と接する際の対応方法で距離感や周囲の観察を行うこと。また、「伝えた」と「伝わったこと」はイコールではないことがわかった。
- ・ただ答えを教えるのではなく、その答えに辿りつけるようなアドバイスやヒントをうまく伝え、受講生のやる気を引き出す、向上心をもたせるための動機づけがTAの役割として重要なことであると感じた。



プログラム番号 Y-013

New!!

ピアサポーター養成講座

プレFD

主な対象

学内活動やボランティア等で、人に関わる活動をより高めていきたいと考える学生・院生。支援やサポートに関するスキルを獲得したい学生・院生。

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

杉田郁代(高知大学 大学教育創造センター)

日時

9月28日(水) 10:00~17:00

場所

高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室(予定)

受講定員

25名

主催

高知大学 大学教育創造センター

メ切

開講日1週間前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

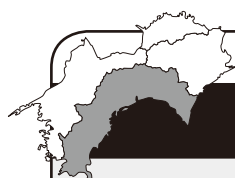
- 自己理解と他者理解に関わる分析手法について、自分の言葉で説明することができる
- コミュニケーションに必要な知識について、自分の言葉で説明することができる(3つの話しの聴き方、非言語コミュニケーション等)
- コミュニケーションスキルの基礎的な技法について4つ以上獲得することができる
- 問題解決スキルを獲得することができる
- ピアサポートプログラムデザインについて、理解しプレゼンテーションをすることができる

内容

1. ピア・サポート概論
2. 自己理解と他者理解
3. 自分のコミュニケーションのクセを知る
自分の強み分析
4. コミュニケーショントレーニング
(一方通行と相互通行のコミュニケーション)
5. 課題解決スキル
6. サポートプログラムのデザインについて
7. ふりかえり

▶準備物について

筆記用具



プログラム番号 Y-014

ファシリテーション力養成道場

プレFD

*主な対象

話し合いの質を高めたい学部生・院生、実際の授業でファシリテーターを経験したい学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. ファシリテーターらしい言動について自分の言葉で説明できる。
2. 話し合いのコンテンツとプロセスを区別できる。
3. 話し合いの場のデザインのポイントを挙げられる。
4. 意識的に傾聴と質問ができる。
5. 話し合いの時にボードの横に立つことができる。
6. ファシリテーションについてさらに勉強しようと思える。

*講師

俣野秀典、塩崎俊彦（高知大学大学教育創造センター）

*日時

10月1日(土)～2日(日)(2日間)
10:00～17:00

*場所

高知大学朝倉キャンパス
共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

36名

*主催

高知大学大学教育創造センター

*メー切

開講日1週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

内容

本プログラムは、ファシリテーションの考え方を知り、必要最低限の知識・技術を習得することにより、話し合いのファシリテーションを実践できるようになることを目的に開催されます。

ミニレクチャーとワークを交互に織り交ぜながら進みますので、参加者全員がファシリテーションを体感することができます。

1日目

1. オープニング：趣旨の理解／アイスブレイク
2. FT（ファシリテーション）の考え方や基本を身につけるⅠ
3. FTの考え方や基本を身につけるⅡ
4. グループプロセスを観察する

2日目

1. アイスブレイク～模造紙にイロイロ書いてみよう
2. FG（ファシリテーション・グラフィック）の基本を身につける
3. FGのための図解の方法と板面の使い方
4. 総合演習

▶参考資料

畠中智子（2008）『つづやきの育て方』南の風社
堀公俊（2004）『ファシリテーション入門』日経文庫

▶参加者の声

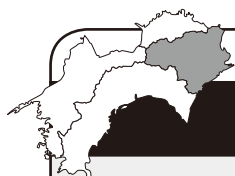
- ・1日目の終わりと、2日目の終わりに自分の成長が感じられ、達成感がありました。
- ・ファシリテーションというものが、一体何なのか。どれほど重要なのかに気付いた。
- ・ファシリテーションとは何なのか全く知らない状況からこの2日間を通して楽しい経験をしながら学ぶことができて良かった。
- ・充実した二日間だった。私には出来ないと思っていましたが、やってみると思ったより（！？）楽しく、前向きにファシリテーターをしている自分がいました。そのような環境を作ってくれたからだと思って感謝しています。







総合プログラム



プログラム番号 T-003

大学教育カンファレンス in 徳島

FD/SD

*主な対象

教職員、学生、一般市民

*対象校

SPOD全加盟校、その他高等教育機関

*目標

特色ある授業実践・授業改善例や学生支援、FD・SDの実践例を共有し、教育改善に生かす。

*発表者

教職員、学生

*日時

12月～1月の間の2日を予定しているが、詳細は未定

*場所

徳島大学
共通教育4号館・5号館等

*受講定員

特になし

*主催

徳島大学 FD委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

*その他

申し込み不要、ワークショップは事前申し込み

*申込先・問合せ

徳島大学 総合教育センター
上岡 麻衣子
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
TEL 088-656-7686
E-mail: kykikakuk@tokushima-u.ac.jp

内容

- ・特色ある授業実践例や授業改善例の発表と意見交換
- ・FD・SD実践例の口頭発表・ポスター発表と意見交換
- ・ワークショップによる模擬授業
- ・ラウンドテーブルによる課題の共有と意見交換
- ・教育・FD・SDに関する特別講演

○開催概要

- ・1年間の教育活動を総括する場で、他の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認することを目的に開催する。
- ・各プログラムでは、各大学・部局における特色ある授業実践例や授業改善例などの報告・討議が行われ、その場で担当者と質疑応答ができ、より詳しい情報収集をすることができる。
- ・発表の形式には、口頭発表、ポスター発表があり、学外からの発表もできる。また、学生も発表筆頭者となることことができる。

○2015年度の実施概要

- ・今年度は、大学教育再生加速プログラム（AP）の取り組みとして、反転授業シンポジウムとアクティブ・ラーニングシンポジウムをカンファレンス内で開催した。他に、口頭発表19件、ポスター発表13件、ワークショップが2件行われた。その内、口頭発表4件、ポスター発表4件は学外からの発表であった。また、学生を発表筆頭者とする口頭発表が5件、ポスター発表が2件あった。午前中は、口頭発表の後、反転授業シンポジウム、ワークショップ2件が平行で開催され、反転授業シンポジウムでは、総合教育センターの金西計英教授が司会となり「反転授業をやってみたー2014年からの実践を通してー」と、ワークショップでは、国際センターの坂田浩准教授による「アクティブ・ラーニングを取り入れた自律英語学習支援についてーオリジナルな英語学習方法について考えようー」と、四国学院大学の仙石桂子助教と本学の国際センターのGehrtz三隅友子教授による「アクティブからパフォーマンス・ラーニングへー身体とこえとことばを体験するー」が行われた。
- ・特別講演として、京都大学高等教育研究開発推進センター長の飯吉 透教授による講演が「ICTを利用した効果的な教育・学習のための授業設計と実践」と題して行われた。その後、アクティブ・ラーニングシンポジウムとラウンドテーブルを同時に開催した。テーマは、「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践」で、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の行實鉄平准教授、小田切康彦准教授、徳島大学大学院医歯薬学研究部の岡久玲子准教授からアクティブ・ラーニングを取り入れた授業についての発表が行われた。ラウンドテーブルからは、阿南工業高等専門学校の坪井泰士教授から発表があり、それぞれの発表の後、全体での質疑応答があった。今回の全体の参加者は学外からの参加者17名を含む、180名であった。

○研究発表について（2015年度）

- ・発表者は、常勤・非常勤を問わず、SPOD加盟校の教職員・学生・院生、SPOD加盟校以外の他高等教育機関の教職員・学生・院生から募集する。
- ・発表内容：全学共通（教養）教育、学部専門教育、大学院教育、公開講座等の授業に関わるもの、また、職員や学生の能力開発に関わるものであること。教育改善・授業改善や、職能開発に関する実践報告にとどまらず、実践成果の評価の分析、および考察を含む発表を歓迎する。

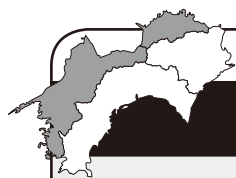
▶準備物について 特になし。当日、発表抄録の配布あり。



【プログラム風景】（2015年度大学教育カンファレンスin徳島より）

▶参加者の声（2015年度大学教育カンファレンスin徳島より）

- ・様々な反転授業やアクティブ・ラーニングの例を知ることができた。
- ・アクティブ・ラーニングの本学における実施状況を知ることができ、自らの教育方法への導入についての検討のきっかけになると感じました。
- ・学生のプロジェクト活動の内容が公開されてよかった。
- ・日々の研究活動では、見えてこないものが見えてきた。
- ・学生の発表の場としていい機会である。
- ・反転授業のe-learning contents作成に対する抵抗が少し緩和された。



プログラム番号 I-026, K-014

大学マネジメントセミナー -次世代リーダーを目指して- ~2回シリーズ~

FD/SD

主な対象

高等教育機関の教職員

対象校

全国の高等教育機関

講師

山本真一（桜美林大学）
船戸高樹（山梨学院大学）
大津正知（九州大学）
池田輝政（追手門学院大学）

日時

第1回
5月27日(金)～28日(土)
第2回
7月22日(金)～23日(土)

場所

第1回 愛媛大学
第2回 香川大学

受講定員

各回 40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
E-mail : kiyoku@
stu.ehime-u.ac.jp

目的

国の提言や施策等、昨今の状況を踏まえた上で大学マネジメント（高等教育政策や高等教育戦略）に関する知識（理論）を学び，“次世代”のリーダーとしての能力を高めることを目的とする。

内容

■第1回：【テーマ】高等教育の現状を知る 【開催日時】平成28年5月27日(金)～5月28日(土) 【会場】愛媛大学

1日目：「高等教育政策論」 講師：山本真一

※目的※

大学を取り巻く様々な政策を理解し、大学改革において必要とされるマネジメント力を発揮できるようになるための基礎を養う。

※目標※

- ・1990年代以降の大学改革について説明することができる。
- ・我が国の大学の特徴を説明することができる。
- ・大学を巡る諸環境の変化を説明することができる。

2日目：「大学行政管理論（日米比較）」 講師：船戸高樹

※目的※

全入時代を迎えて淘汰が始まりつつある日本の大学の事情と展望について、アメリカの大学制度と比較しながら考察する。

※目標※

- ・ミッションの再確認とカリキュラムの再構築をすることができる。
- ・大学マネジメント組織のプロ化について説明することができる。
- ・教職員の職責とパートナーシップの確立をすることができる。
- ・高等教育機関と社会との距離の再定義をすることができる。

■第2回：【テーマ】高等教育における歴史と戦略を考える 【開催日時】平成28年7月22日(金)～7月23日(土) 【会場】香川大学

1日目：「高等教育史」 講師：大津正知

※目的※

日本の高等教育の歴史とポイントを理解し、現在の様々な大学の改革や取組への繋がりを理解する。

※目標※

- ・高等教育機関の現状を説明することができる。
- ・日本の大学改革の歴史の概要を説明することができる。

2日目：「高等教育戦略論」 講師：池田輝政

※目的※

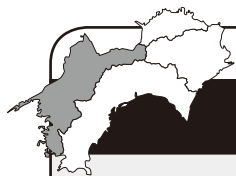
学部・研究科集合体を前提とした大学経営の現状において、社会に求められる「戦略マネジメント」の体制構築の方法について学ぶ。

※目標※

- ・戦略プランの必要性を述べることができる。
- ・戦略マップの有効性を説明することができる。
- ・戦略アークテクチャーを作成することができる。
- ・戦略を管理することができる。
- ・大学経営の中・長期計画に参画することができる。

▶受講者の声（アンケートからなど）

- ・米国の大学に関することが、他では聞けない内容で充実していた。
- ・アメリカの大学システムに関する詳しい説明があり、講義を理解する上でとても参考になった。
- ・リスク管理について、リスクの書き出しがひとりひとり異なる視点であり、それら全てリスクであること、想定内のリスクは回避できることを知ることができた。
- ・教育業界からの視点や、教育の中身の改革の重要性についての説明が鮮明に感じた。
- ・大学の現状を再認識し、大学を取り巻く環境や歩んできた歴史、なぜこのような状況になったかが良くわかった。
- ・政治・経済の動向との関連が高等教育政策と大いに関係があることを知り、大変勉強になった。



プログラム番号 I-027

愛媛大学教育改革シンポジウム

FD/SD

*主な対象

愛媛大学の教育内容・方法の改善について興味を持っている教職員、学生等

*対象校

SPOD 全加盟校

*目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ、現在、愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

*講師

愛媛大学教員（愛大GP取組担当者）

*日時

3月中

*場所

愛媛大学城北キャンパス

*受講定員

特になし。入場自由。

*主催

愛媛大学教育改革諮問委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育企画課
E-mail : kiyoku@stu.ehime-u.ac.jp

内容

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」（愛大GP）を行っており、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年「教育改革シンポジウム」を開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声をきくことができます。



▶参考：愛大GPとは

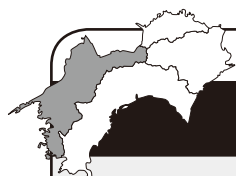
愛媛大学における優れた教育改革の取組を取り上げ、教育経費の重点配分を行い、教育の高度化・活性化を図る事業。学士課程及び大学院課程における組織基盤的な教育改革プログラム（種目1）、組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクト（種目2）、1人又は比較的小人数の教員グループによる授業改善プロジェクト（種目3）を学内から公募。事業期間は2年間で、採択された取組の中には、さらに内容を発展させ、文部科学省のGPに応募、採択された例もある。

▶参考資料

平成27年度 採択プログラム・プロジェクト名	
教育学部	課題研究指導力の育成を目指した教育プログラムの開発
工学部	ピア活動を利用したプレゼンテーション能力開発と準正課教育プログラムへの展開
理学部	クォーター制のメリットを最大限に活かす反転授業教材の開発
教育学部他	インクルーシブ教育システム下において、児童生徒の健康問題へ適切に対応できる教員養成カリキュラムの開発 ー医教連携による学際的講義・実習の充実を目指してー
医学部	学生にがん医療職リーダーとしての専門意識を植え付ける準正課教育
英語教育センター	英語のテスト項目バンク（Test Item Bank）開発プロジェクト

▶受講者の声

- 初年次教育に活用できる部分が多くて、とても参考になった。
- 高大接続についての理解が深まった。
- 今後授業を実施していくにあたっての動機付けが向上した。



SPOD フォーラム 2016

FD/SD

*主な対象

教育改善に関心のある教職員

*対象校

SPOD 全加盟校

*日時

8月24日(水)～26日(金)

*場所

愛媛大学城北キャンパス

*主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)

*後援

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*問い合わせ先

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
TEL 089-927-9154
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

SPODフォーラムは… 大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高い FD / SD プログラム、ならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

【SPODフォーラムの特徴】

特徴1. 多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェSSIONALなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえます。

特徴2. 職場で使える実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムを数多く開講します。参加者には意見を出し合い、知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特徴3. SDプログラムも多数開講

SPODでは、FD(教員の能力開発)同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講します。

【SPODフォーラム 2016 のテーマ】

「経験を学びに変える」

プログラムの一例

- ・経験学習入門
- ・ルーブリック評価入門～考える、つくる、活用する～
- ・教育データ解釈法入門・応用

最新情報は、WEBで随時更新していきますので、ご確認ください(昨年同様、WEB上のみでの申込みを予定)

<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>







学内向け研修プログラム

学内向け研修プログラム

徳島大学

教育支援課教育企画室 TEL: 088-656-7686 FAX: 088-656-7688
E-mail: kykikakuk@tokushima-u.ac.jp 担当者/吉岡

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
授業コンサルテーション	「授業設計ワークショップ」 受講者+希望者	随時	総合教育センターの教員が中心となり授業改善のためのコンサルティングを行う。方法としては、授業参観（ビデオ録画・学生アンケートを含む）を行い、それらのデータをもとに授業記録を作成し、授業研究会を行う。学部FD委員会と共催で開催する。
質保証のための分野別ワークショップ	学部・学科の 教務委員、 FD委員	随時	ミドルレベルのFDとして、キャンパスごとに部局FDの現状を共有する場を設け、各学部・学科等のFDの取り組み内容、共通する課題、全学FDとの連携の在り方などを話し合う場とする。必要があれば、部局ごとに、成果や課題、ニーズなどを明らかにするための場を設け、FDの効果検証、カリキュラムマップ、ナバリングの活用、総合教育センターとの連携の在り方などについて検討を行う。
新任教職員研修会	新規採用者 (教職員)	4月上旬	大学を取り巻く諸情勢と本学が達成すべき諸課題等について理解を深めるとともに、本学の教職員としての基礎知識を学ぶことを目的とする。
放送大学利用職員研修	事務系・技術系・ 医療技術系職員	第1学期: 4月上旬 第2学期: 10月上旬	①医療技術職員に対し、その職務遂行に有用な知識を習得させ、もって職員の能力と資質の向上を図る。 ②大学の国際化に対応するため、職員の外国語能力を養うとともに、職員の能力と資質の向上を図る。 ③業務及び職務の遂行、資質の向上に役立つと認められる科目を自ら選択、履修させ自己啓発意欲の向上を図る。 ④国立大学法人化への対応、また、大学改革に伴う経営管理についての知識を修得させることにより、大学職員としての能力と資質の向上を図る。
英会話研修	事務系・技術系・ 医療技術系職員	9月～11月 (うち12週)	(基礎編)大学のグローバル化に対応するため、英語によるコミュニケーションの基礎を学び、具体的なシチュエーションに対応できるスキル習得を目的とする。(応用編)大学のグローバル化に対応するため、実務において英語で対処できること及び優れたパブリックスピーキングの基礎を学ぶとともに、英語によるプレゼンテーションやディスカッションのスキル習得を目的とする。(上級編)大学のグローバル化に対応するため、よりプロフェッショナルな書類、電子メール等の書き方を習得するとともに、討議によるトレーニングによりプレゼンテーションやディスカッションの高度なスキルを習得し、実務において臨機応変に対応できる職員の育成を目的とする。
パソコン講習会	事務系・技術系・ 医療技術系職員	9月上旬	パソコンに対する知識・技術を習得させ、日常業務でのパソコンの有効利用の促進を図ることにより、業務処理の効率化に資することを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

鳴門教育大学

経営企画本部総務課労務係 TEL: 088-687-6265 FAX: 088-687-6072
E-mail: jnroumu@naruto-u.ac.jp 担当者/廣島

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月5日(火)	本学に採用になった職員に対し、本学の中期目標・中期計画を基に本学が達成すべき諸問題等について研修を行い、本学の職員として必要な基礎知識を養うことを目的とする。
管理者研修	課長級、 課長補佐級	4月下旬 ～5月上旬	管理監督者として求められる知識、資質及び能力を向上させることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川大学

教育・学生支援室修学支援グループ TEL: 087-832-1153 FAX: 087-832-1155
E-mail: gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp 担当者/石井

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
放送大学研修	事務系・ 技術系職員	第1学期: 4月上旬～ 第2学期: 10月上旬～	職務の遂行に必要な最新の知識の習得及び幅広い視野と見識を養うことによって、職員の資質の向上を図ることを目的とする。
若手事務職員研修	事務系・ 技術系職員	4月中旬	新たに採用となった職員を主に若手事務職員に対し、本学の理念と目標を認識させ、必要となるべき基礎知識等を習得することを目的とする。
新任教員研修会	新規採用者 (全学教員)	4月中旬	本学の新任教員を対象に、国立大学法人を取り巻く諸情勢と本学の今後の課題及び大学教育等について、理解を深めることを目的とする。
全学共通教育の平成29年度実施に向けた研修会	全教員 (特に平成29年度全学共通教育担当予定の教員)	12月上旬	全学共通科目担当にあたって、第1部では全学共通教育における現状と課題を把握し、現在取り組んでいる事業及び事務的な手続について知る。第2部では、各分科会に分かれ、授業改善に関する具体的な事例紹介と設定したテーマについての意見交換を行い、全学共通教育に関する理解を深める。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

愛媛大学

教育学生支援部教育企画課能力開発室 TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922
E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp 担当者 / 猪崎

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月4日(月) ～5日(火)	新たに採用になった教職員に対し、「本学の理念・目標を理解し、教育・研究、地域連携、国際連携の特徴的な取り組みを学ぶこと」、「新任教職員同士、新任教職員と学生との交流を通じお互いの理解を深めること」、「大学職員としてのキャリアビジョン、ゴールを明確化すること」を目的とする。
愛媛大学TA・SA研修会	TA・SAを活用する 教員及び新TA・SA 採用予定者	4月8日(金)	TA・SAの心構えや業務に就く際の注意事項を学び、わかりやすく教える技術を習得することを目的とする。
放送大学研修	事務系・ 技術系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	放送大学の授業受講を通じて職務遂行に必要な知識を修得させ、その資質の向上を図ることを目的とする。
有期契約職員 初任者研修	有期契約職員 (事務系)	4月下旬	新たに採用になった有期契約職員(事務系)に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
英語研修	教職員、 有期契約職員	前期：5月上旬～ 後期：11月上旬～	職員の英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。
総務系実務研修	事務系職員 (主に総務系 以外)	7月下旬	大学改革の推進等により、大学の総務系事務も複雑多岐にわたることから、総務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に総務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
会計系実務研修	事務系職員 (主に会計系 以外)	8月上旬	大学改革の推進等により、大学の会計系事務も複雑多岐にわたることから、会計系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に会計系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
研究支援・社会連携・ 国際連携系 実務研修	事務系職員 (主に研究支援・ 社会連携・国際連 携系以外)	11月下旬	大学改革の推進等により、大学の研究支援・社会連携・国際連携系事務も複雑多岐にわたることから、研究支援・社会連携・国際連携系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に研究支援・社会連携・国際連携系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
人権啓発研修	教員及び 事務系職員	12月中	教職員に対し、人権問題についての正しい認識を養うとともに、人権侵害を防止し、より一層快適な教育環境及び職場環境を整えることを目的とする。
教育学 生支援 実務研修	事務系職員 (主に学務系 以外)	12月上旬	大学改革の推進等により、大学の学務系事務も複雑多岐にわたることから、学務系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に学務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
教育コ ーディ ネーター 研修会	各学部の 教育コ ーディ ネーター	年5回程度	教育コーディネーター間の意思疎通を図り、教育改革の方向性について共通認識を持つことを目的としている。研修会テーマは毎回、全学的かつ重要な教育課題となるものを採りあげている。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知大学

総務部人事課労務管理係 TEL : 088-844-8584 FAX : 088-844-8119
E-mail : kj08@kochi-u.ac.jp 担当者 / 廣瀬

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
全学新任教職員研修	新規採用の 教職員	4月上旬	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
新任事務職員研修	新規採用の 事務職員(施設系 技術職員含む)	4月下旬	新たに採用となった事務職員に対し、本学の理念・目標など大学運営の基礎となる事項について理解させるとともに、新規採用職員として業務遂行に必要な基本的知識を習得させる。
放送大学研修	附属学校教員、 看護師等医療職員、 事務職員(技術 職員含む)	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	自己啓発意欲の高揚と能力開発のために、放送大学の授業科目を受講して自己研鑽を行う機会を与えることにより、大学職員としての資質の向上を図る。

語 学 研 修	窓口業務など 職務上外国語 能力を必要と する職員等	未定	語学力の向上を図るとともに、国際感覚を養う。
パ ソ コ ン 研 修	パソコンの スキルアップを 希望する職員	未定	スキルアップの機会を提供し、日常業務の効率化に繋げることを目的とする。
事務職員研修報告会	全事務職員	各部(課) 随時 全学 12月頃	事務職員を対象に、研修受講者の発表能力(プレゼンテーション)の向上、受講しなかった者への情報提供等を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川県立保健医療大学

香川県立保健医療大学 TEL : 087-870-1212 FAX : 087-870-1202
E-mail : hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp 担当者 / 山口

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
ティ ー タイム 教 育 サ ー ク ル	教職員	2月	学内教員による討議、学外講師(SPOD講師以外)による新しい取り組みの紹介など教職員の修学支援、学生生活支援の資質向上のために開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知工科大学

総務部人事課 TEL : 0887-53-1112 FAX : 0887-57-2000
E-mail : personnel@ml.kochi-tech.ac.jp 担当者 / 片山

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
OAスキルアップ研修	職員	未定	事務処理能力の向上、業務の効率化を目的としたOAスキルアップ研修を実施する。
語 学 研 修	職員	8～9月頃	語学力ならびに留学生、外国人数員とのコミュニケーション能力の向上を目的とした語学研修を実施する。
職 員 研 修	職員	未定	大学職員としての果たすべき役割について理解を深めるとともに、段階に応じた能力の向上を目的とした研修を実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

四国大学・四国大学短期大学部

総務・企画部総務課 TEL : 088-665-9900 FAX : 088-665-8037
E-mail : soumu@shikoku-u.ac.jp 担当者 / 大恵

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新規採用教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	本学教職員としての心構え並びに勤務にあたってこれからの教育や職務に対する必要な知識等を習得することを目的とする。
就業力育成セミナー	全教職員	8月	学生への「就業力育成」に関する意識の向上やノウハウを学ぶことを目的に実施する。
パ ソ コ ン 研 修	教職員	8月・9月	情報セキュリティ対策の研修、ワード、エクセル等の練習問題に取り組みながら様々なテクニックを確認し、事務処理能力を向上していくことを目的とする。
大学事務運営懇話会	職員	未定	事務を本務とする職員が自らの研修と情報交換を行うことで、大学職員としての資質向上を図ることを目的とする。
人 権 教 育 研 修 会	教職員	9月中旬	人権尊重の徹底と人権啓発の充実及び人権への意識を高めることを目的とする。
キャリア相談研修会	全教職員	9月・1月	学生のキャリア相談に応じる力量を向上させることを目的に実施する。
ハラスメント防止研修会	教職員	1月	セクハラ、アカハラ、パワハラについての認識を深めるとともに、修学、教育研究、就労上のすべてのハラスメントの防止及び排除することを目的とする。
教 育 問 題 懇 話 会	教職員	未定	これからの教育諸問題に対する適切な対応や指導の在り方についてお互いに意見交換を行い、解決策を探っていく。
外 国 語 研 修	職員	9月	大学の国際化に対応し、職員の外国語によるコミュニケーション能力を向上させることを目的に実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

教育・研究支援グループ TEL: 088-602-8670 FAX: 088-602-8781
E-mail: kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp 担当者/新見

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修会	新任教職員	4月4日(月) 4月5日(火)	新任教職員に対し、本学の教職員としての使命と心構えについて自覚させるとともに、服務及び学務について理解させ、業務遂行に必要な基礎知識と能力等を養成することを目的とする。
研究授業	全教員	前期及び後期	授業改善を目的とし、教員相互の授業参観を実施する。
防災研修・避難訓練	全教職員・全学生	12月初旬	火災・地震・津波に対応する知識の習得、防災担当の役割等の研修を通して災害時の対応の仕方を身につけることを目的とする。
セクシャルハラスメント防止研修会	全教職員	2月中旬	セクシャルハラスメント防止の講演会を開催する。
学内人権教育研修会	全教職員	2月中旬	人権教育の観点から、講演会を開催する。
AED(自動体外式除細動器)講習会	全教職員	2月下旬	救急体制強化のためのAED講習会を開催する。
FD研修会・講演会	全教職員	適宜	資質の向上を目的とし、学内・学外の講師による研修会を年間数回程度実施
SD研修会・講演会	全教職員	2月中旬	1年間のSD活動を報告後、テーマを絞った研修会を実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高松大学・高松短期大学

総務部企画課 TEL: 087-841-2164 FAX: 087-841-3064
E-mail: kikaku@takamatsu-u.ac.jp 担当者/大芝

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日(金)	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
FD研修会	専任教員、非常勤講師	9月中旬 2月中旬	全教員を対象に、本学における教育の現状と課題について理解を深め、具体的な対策を講じることを目的に、年2回実施する。
研究授業	専任教員、非常勤講師	6月、12月	授業の改善のために、各学部、学科で年2回研究授業を実施する。授業後には検討会を行い、互いの授業改善に活かすことを目的とする。
SD研修会	専任教員	8月上旬 1月上旬	活気のある事務局づくりを目指し、大学職員としての意識、知識、資質向上を目的に、年2回実施する。
放送大学研修	専任教員	第1学期: 4月上旬～ 第2学期: 10月上旬～	放送大学の科目を履修することで、職員の資質向上及び自己啓発を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

聖カトリナ大学・聖カトリナ大学短期大学部

総務課 TEL: 089-993-0702 FAX: 089-993-0900
E-mail: soumu@catherine.ac.jp 担当者/大浦

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新規採用の教員	4月上旬	新たに採用になった教員に対して、本学教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、本学の建学の精神、教育理念、業務遂行に必要な基礎知識を養成することを目的とする。
新任事務職員研修	新規採用の事務職員	4月上旬	新たに採用になった事務職員に対し、本学の理念・目標を自覚させるとともに、業務遂行に対する基礎知識や基本的な能力・資質の養成を図る。
FD研修会	専任教員	未定	全専任教員を対象に、授業、教授法の改善、カリキュラム改善、組織の整備・改善等、更なる教育力向上を図ることを目的として実施する。
事務職員研修	事務職員	8月、12月	時宜に応じたテーマの設定により、事務職員としての必要な知識、情報、技術の習得を図る。また、学外研修において得た知識や情報の報告を行うことにより、その共有化を図るとともに、報告者のプレゼンテーション能力の向上を図る。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

TEL: 089-931-6211 FAX: 089-934-9055
E-mail: yuka@shinonome.ac.jp 担当者/木村

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月2日(土)	新任教職員に対し、本学の建学の精神、学園の沿革、教育体制および服務等について理解を深めることを目的とする。
FD研修会	教職員	年2回	全教職員を対象とし、外部の講師を招いて、講義・ワークショップ等の研修会を開催する。
SD研修会	事務職員	年2回	事務職員として基本的な知識の習得、能力向上を目的として実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

徳島工業短期大学

事務局 TEL: 088-672-2311 FAX: 088-672-2162
E-mail: k.tsutsui@tokuco.ac.jp 担当者/筒井

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 職 員 研 修	新任職員	4～6月	新たに採用になった職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識を得させる。
FD/SD 合 同 研 修 (4回)	全職員	未定	①実践的 SWOT 分析 ②IR レポート分析 ③学習成果の獲得（意欲の低い学生、発達障害のある学生）④四国大学との合同研修
S D 研 修	全事務職員	未定	教職協働を視野に入れた教育の質的転換についての研修
F D 研 修	全教育職員	未定	アンケート分析を活用した授業見学に基づく教授・プレゼン方法の研修

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川短期大学

FD 委員会・SD 委員会 TEL: 0877-49-8049 (平成 27 年度) FAX: 0877-49-5252
E-mail: hino@kjc.ac.jp 担当者/未定 (平成 27 年度は日野)

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
FD/SD 伝達講習 1	全教職員	9月9日(金)	SPOD フォーラム参加者を中心とした伝達講習
FD/SD 伝達講習 2	全教職員	平成29年 1月4日(水)	教務担当者研修等の伝達講習

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

今治明德短期大学

FD/SD 委員会 TEL: 0898-22-7279 FAX: 0898-22-7857
E-mail: fuo@meitan.ac.jp 担当者/寺川

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
H28 年 度 新 任 教 職 員 研 修 会	新任教職員	4 月初旬	本学に対する理解を深め、教職員としての自覚を醸成する。
公 開 授 業	全教員	6～7月	学科から選出された授業を公開し、参観後にディスカッションし、授業の質の向上に繋げる。
学 内 F D 研 修 会	全教員	未定	学内において、教育方法の改善を目的とした研修を行う。
学生に対する授業評価	全学生	前期7月・ 後期1月	在学生に対して、授業アンケートを行い、授業の質の向上に繋げる。
卒業生に対する授業評価	卒業予定の 学生	平成29年3月	卒業予定の学生に対し、卒業直前に満足度調査を行い、授業の質の向上に繋げる。
学 内 S D 研 修 会	全教職員	8～9月	教育情報システム開発チーム(EIS)と協働し学修ポートフォリオ開発・周知のための研修を行う。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

環太平洋大学短期大学部

事務局 TEL: 0895-22-0156 FAX: 0895-22-3437
E-mail: fujita@aitan.ac.jp 担当者/藤田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 教 職 員 研 修	新任教職員	4 月初旬	本学の建学の精神・学園の沿革及び教育体制等について理解を深め、業務遂行の基礎知識を習得することを目的とする。
F D 研 修 会	全教員	9 月下旬	教員の資質向上を図ることを目的とした研修を行う。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

阿南工業高等専門学校

総務課 TEL: 0884-23-7212 FAX: 0884-22-5424
E-mail: s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp 担当者/総務課課長補佐(総務)

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 教 員 研 修	新任教員	4 月	新任教員に対し、本校の教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
夏 季 教 員 研 修 会	全教員	9 月	教員の資質向上を目的として、年2回、時機にあったテーマを選び、講演会・分科会・ワークショップ等の形式による研修会を実施する。
冬 季 教 員 研 修 会	全教員	11 月	

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川高等専門学校

総務課 TEL: 087-869-3864 FAX: 087-869-3819
E-mail: s_hosa@t.kagawa-nct.ac.jp 担当者/十河

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新任教員	4月初旬、9月	本学の新任教員に対して、教員としての心構えを自覚させるとともに、学校運営上必要な基礎知識の習得及び資質の向上を図ることを目的とする。
FD・SD研修会	全教職員	9月	香川高専の課題とその対応を討議することにより、全教職員がそれらを共有する機会とすることを目的とする。
教育実践事例報告会	全教職員	12月	学生の教育意欲を増進させる教育実践事例や創意工夫などFDに寄与する事項を公開することにより、教職員のFDに対する意識高揚を目的とする。
メンタルヘルス及びハラスメント防止研修	全教職員	未定	快適なキャンパスライフの実現に取り組む上で、教職員としての心構えを再認識させることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

新居浜工業高等専門学校

総務課人事係 TEL: 0897-37-7761 FAX: 0897-37-7842
E-mail: jinji-c@off.niihama-nct.ac.jp 担当者/原

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新任教職員	4月上旬	新たに採用になった教員に対し、高等専門学校の教員としての基本的な業務に習熟し、学校運営全体について理解を深めるための実践的な研修を計画的に実施することにより、本高専の教員としての資質の向上を図ることを目的とする。
学生相談に関する研修会	教職員	未定	学生が抱える種々の問題に対する理解を含め、学生の課題解決の支援を実施することができる教職員を養成する。
教育改善事例報告	教員	未定	教育改革に取り組んでいる実践的な事例報告を通して、各教員が教育改善への一助とする。
最優秀担任による学生指導事例報告	教員	未定	平成27年度に最優秀担任として選考された教員から、学生指導についての実践的事例を報告し、学級経営の一助とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

弓削商船高等専門学校

総務課総務・人事グループ TEL: 0897-77-4607 FAX: 0897-77-4692
E-mail: jinji@yuge.ac.jp 担当者/天野

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月1日	新たに採用となった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
教員研究懇談会	全教員	8月、12月頃	教員の資質向上を目的とし、学科から選考された教員が発表を行う。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知工業高等専門学校

総務課 TEL: 088-864-5601 FAX: 088-864-5606
E-mail: s_hosa@jm-kochi-ct.ac.jp 担当者/山田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	採用時	新たに採用になった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	教職員	1学期・2学期	放送大学高知地域学習センターの協力のもと、職務遂行に必要な幅広い知識及び視野、基本的な社会知識を習得させ、教職員の資質の向上を図ることを目的とする。
心身の健康管理に関する講習会	教職員	未定	教職員の心身の健康管理について毎回テーマを絞り、正しい理解と対処方法についての知識を高めることを目的とする。
新任教員FD研修	本校に新採用となった教員	通年	通年にわたり、指導教員との相互授業参観や指導教員からの授業方法等に関するアドバイス等を受けることで、授業力や教育力を向上させ、学生によりよい授業が提供できる教員育成を目的とする。
FD研修会	全教員	8月、12月頃	テーマを絞った教育改善のための研修会を実施する。 (例) 学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?
教員の相互授業参観	全教員	7月～8月初旬	教員が相互に授業を参観し、授業改善への意識の向上を図るとともに、学生が授業に取り組む姿勢を見学して授業改善の必要性を感じてもらうことを目的とする。
学生による授業評価アンケート	全教員	7月、1月	学生による全科目の授業評価を実施し、その結果に対して、教員の振り返りコメントを入力させることにより授業改善への意識の向上を図るとともに、授業改善や工夫を喚起させることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

各種研修プログラムのお申し込み・お問い合わせについて

徳島大学

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

【FDプログラム】

徳島大学 総合教育センター

(担当/上岡)

TEL : 088-656-7686 FAX : 088-656-7688

E-mail : kykikakuk@tokushima-u.ac.jp

【SDプログラム】

徳島大学 総務部人事課SD担当

(担当/荒木)

TEL : 088-633-7017 FAX : 088-633-7474

E-mail : jinjihosak@tokushima-u.ac.jp

ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

香川大学

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

【FDプログラム】

香川大学 教育・学生支援室修学支援グループ

(担当/下田)

TEL : 087-832-1153 FAX : 087-832-1155

E-mail : gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

【SDプログラム】

香川大学 経営管理室給与福利グループ

(担当/藤原)

TEL : 087-832-1044 FAX : 087-832-1054

E-mail : jinsenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

ホームページ <http://www.kagawa-u.ac.jp/>

愛媛大学

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

【FDプログラム】

愛媛大学 教育学生支援部教育企画課能力開発室
(担当/猪崎)

TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922
E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp

【SDプログラム】

愛媛大学 教育学生支援部教育企画課
(担当/五貫, 村越, 漆原)

TEL : 089-927-9154 FAX : 089-927-8100
E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.ehime-u.ac.jp/>

高知大学

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5-1

【FDプログラム】

高知大学 学務部学務課
(担当/井上, 高橋)

TEL : 088-844-8144 FAX : 088-844-8367
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

【SDプログラム】

高知大学 総務部人事課SD担当
(担当/廣瀬)

TEL : 088-844-8584 FAX : 088-844-8119
E-mail : kj08@kochi-u.ac.jp

ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/>

■お申し込み方法■

下記の内容を開催大学の申し込み先にメールで送付ください。

①氏名
②所属大学
③所属学部，所属部署など
④職種（教員，職員等）
⑤プログラム番号
⑥プログラム名

各プログラムには受講定員があります。そのため，申し込み受付は先着順とさせていただきます。

■遠隔配信について■

遠隔配信の申し込みについては，各加盟校事務担当者を通じて別途お知らせします。

SPODは，加盟校の皆様の会費によって運営しています。そのため，原則としてSPOD加盟校以外の教職員の皆様が研修プログラムを受講する場合には，研修料を徴収させていただきます。（研修料については下の表をご参照ください。）

区 分	2時間以下の プログラム	1日で終了する プログラム	1泊2日の プログラム	2泊3日以上 のプログラム	左記に関わらず 外部委託する研 修プログラムの 研修料は，委託 費の総額を受講 定員で除した金 額とする。
研修料	2,000円	3,000円	5,000円	7,000円	

【研修料に関するお問い合わせ先】

SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL：089-927-9154 E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp

■SPODホームページについて■

SPODホームページでは、研修プログラムやSPODフォーラムの内容を随時更新し公表しています。また、これまでのSPODの取組についても掲載しておりますので、是非ご参照ください。

The screenshot displays the SPOD homepage with a dark header and a light sidebar. The main content area features a large banner for the SPOD forum and a list of recent events. The sidebar contains various navigation links and document uploads.

Header: 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD = Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education)

Navigation: TOP, SPODについて, 各種リンク, サイトマップ, SEARCH THIS SITE, 検索の方法

Sidebar:

- イベント情報
- SPODについて
 - 設置目的
 - 規約
 - 取組内容
 - 関連情報
 - 加盟校一覧
 - 研修講師一覧
- 研修プログラムガイドを見る
- 研修テキストを見る
 - FD ファカルティディベロップメント
 - SD スタッフディベロップメント
- 関連資料を見る
 - 会議 協議会等
 - 調査・報告
- メルマガ登録
- 各種様式
- 加盟校専用 (要ID, PW)

Main Content:

学生の豊かな学びと成長を支援する
実践的力をもった
高等教育のプロフェッショナルの輩出

SPODフォーラム
S. P. O. D.

4月のイベント情報

- 【愛媛／研修／FD・SD】学生を眠らせない講義法のコツを4月7日(火)に開催
【イベント情報】 update 2015.03.20
- 【愛媛／研修／FD】効果的なグループワークの進め方を4月7日(火)に開催
【イベント情報】 update 2015.03.20
- 【愛媛／研修／FD】学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計―課題分析図の活用―を4月6日(月)に開催
【イベント情報】 update 2015.03.20
- 【愛媛／研修／FD】会議マネジメントを4月6日(月)に開催
【イベント情報】 update 2015.03.20

更新情報

- 【全体／報告／FD・SD】平成26年度活動報告書
【調査・報告】 update 2015/3/31
- 【全体／会議／FD・SD】平成26年度第8回SPODネットワークコア運営協議会(平成27年1月21日(水)開催)
【SPODネットワークコア運営協議会】 update 2015/2/18
- 【全体／調査・研究プロジェクト／FD】SPODにおける新任教員研修の効果
【調査・報告】 update 2015/2/5
- 【全体／会議／FD・SD】平成26年度第7回SPODネットワークコア運営協議会(平成26年12月17日(水)開催)
【SPODネットワークコア運営協議会】 update 2015/1/22
- 【全体／会議／FD・SD】平成26年度第6回SPODネットワークコア運営協議会(平成26年11月19日(水)開催)
【SPODネットワークコア運営協議会】 update 2014/12/12

ページトップへ

TOP | 各種リンク | 個人情報保護について | サイトマップ

問合せ先／四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画課)
TEL:089-927-9154/FAX:089-927-8100 問合せメール

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」は、全加盟校からの分担金により運営しています。
Copyright (C) 2015 SPOD All Rights Reserved.

SPODホームページアドレス <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

研修プログラムガイド 2016

平成28年5月 発行

発 行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(事務局：愛媛大学教育学生支援部教育企画課)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL/FAX 089-927-9154

E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)」は、
加盟校の共同事業として運営しています。

SPOD=Shikoku

Professional and
Organizational

Development Network in Higher Education

